

第3次鶴ヶ島市地域福祉計画 鶴ヶ島市社会福祉協議会地域福祉活動計画 策定に関する市民意識調査報告書

鶴ヶ島市及び鶴ヶ島市社会福祉協議会では、市民の地域福祉に関する意識、実態等を把握し、地域福祉計画・地域福祉活動計画の基礎資料とすることを目的として市民意識調査を実施しました。

この回答結果を、分析を含めてここに報告します。

【調査概要】

- (1) 調査の対象：1,000人（無作為抽出）
- (2) 回収率：515人から回答（有効回収率51.5%）
- (3) 調査の実施時期：令和2年10月14日（水）～10月31日（土）
- (4) 調査方法：郵送方式
- (5) 調査内容：基本属性を除いた 計13問
 1. 基本属性が7項目
 2. あなたと地域のことについての質問が6質問
 3. あなたの普段の暮らしについての質問が6質問
 4. 他に自由回答欄が1質問

【調査結果の見方】

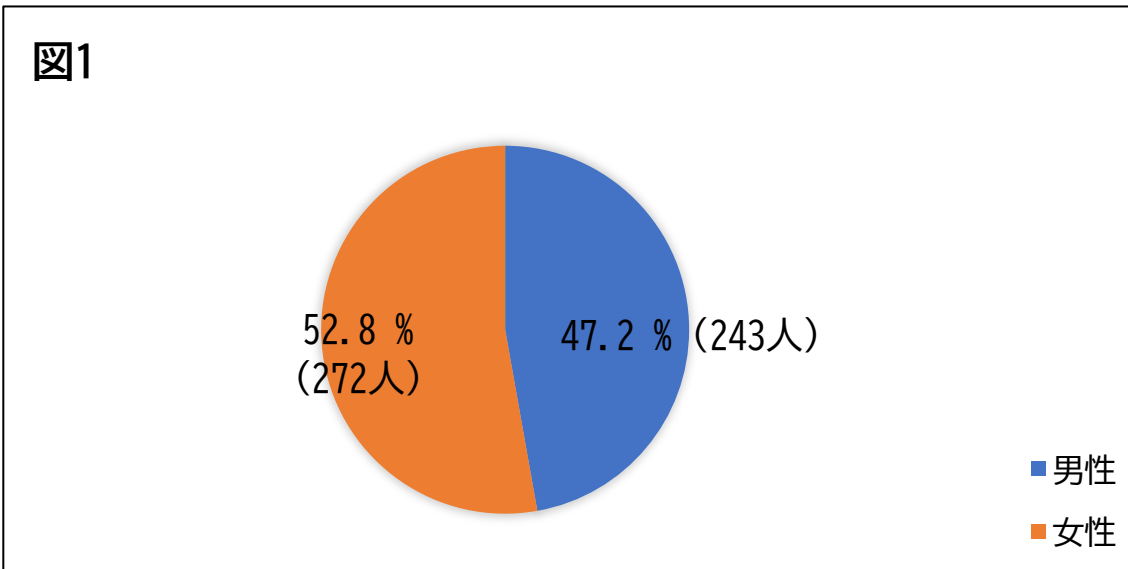
- 統計処理上、小数第二位以下四捨五入していますので、合計が100%にならない場合があります。また、複数回答では合計で100%を超えます。
- 一部の項目は、年齢別などクロスして分析しています。
- 第2次地域福祉計画・地域福祉活動計画策定に伴い、平成27年8月に実施しました前回調査と一部に同じ調査項目があるところは、原則として第3次地域福祉計画・地域福祉活動計画策定に伴う今回調査と比較しています。表記では、前回・今回と調査を省いて表現しています。

1. 回答者基本属性（ご回答いただくあなたのことについておたずねします。）

(1) 性別について

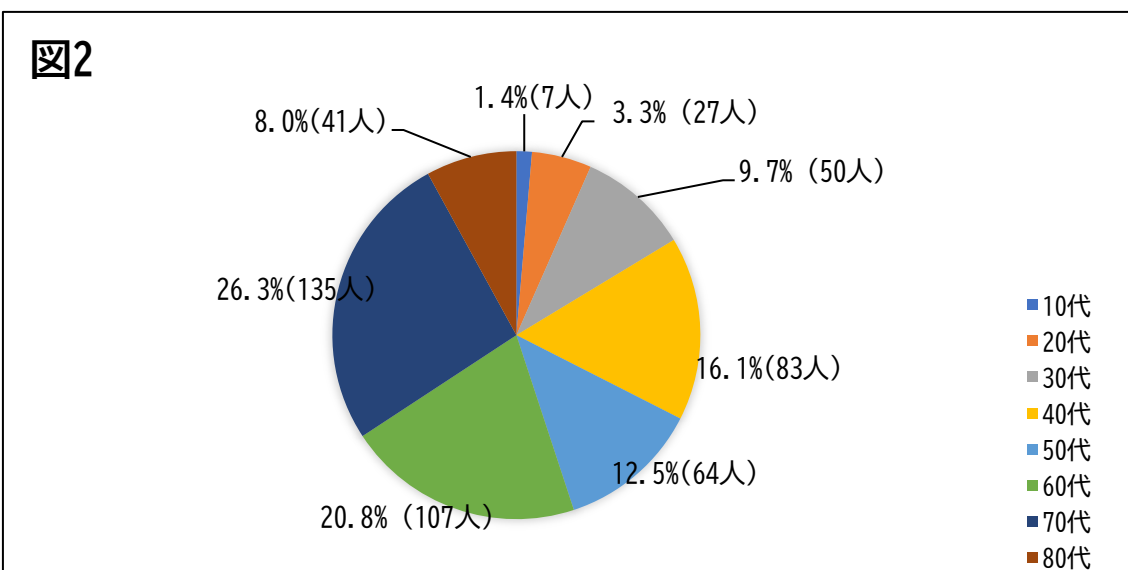
男性：243人 女性：272人 計515人

男性と女性はやや女性（52.8%）の方が男性（47.2%）より多い回答でした。



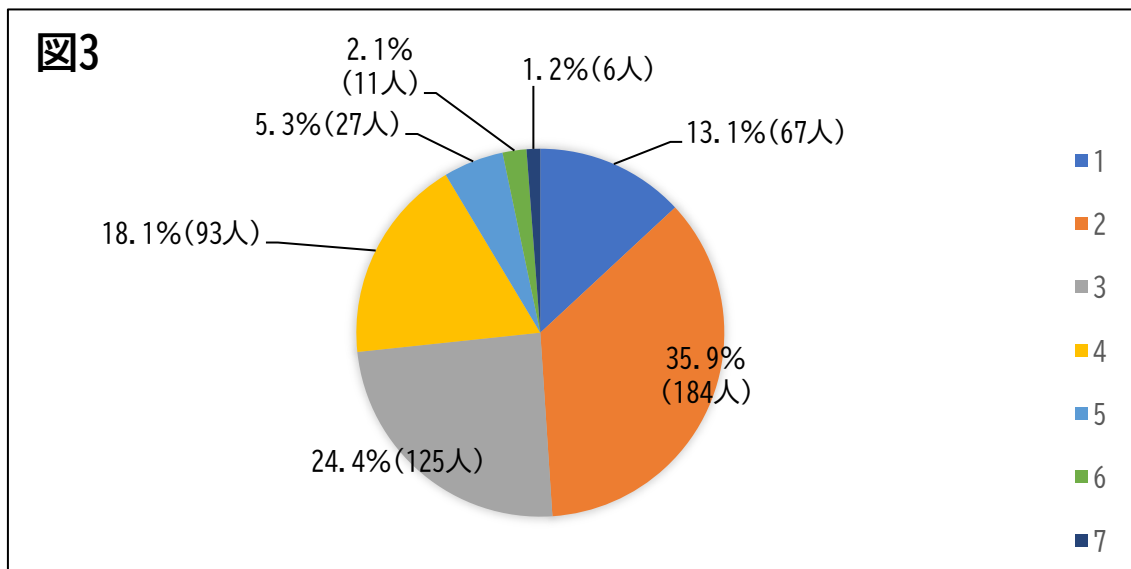
(2) 年齢について

無記入者を除く回答者514人の内訳は以下の通りです。年齢は10歳区分で見ますと【70代】が26.3%（135人）と一番多く、次いで【60代】20.8%（107人）、【40代】16.1%（83人）の順でした。



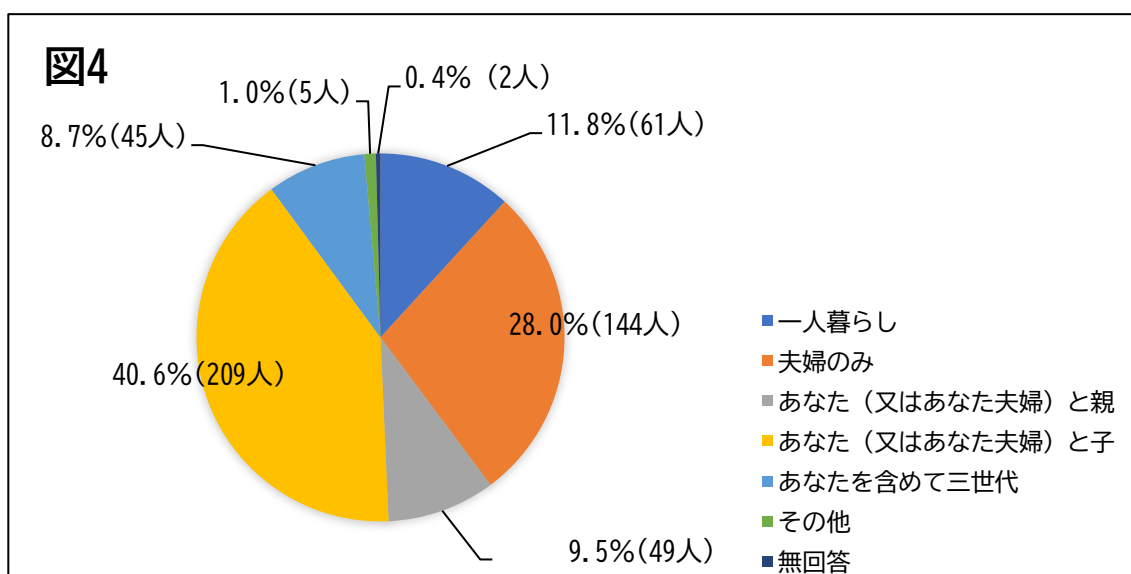
(3) 同居している方は自分を含めて何人かについて

無記入者を除く回答者 513 人の内訳は以下の通りでした。同居している人数として、【2人暮らし】が 35.9% (184人) と最も多く、次いで【3人暮らし】が 24.4% (125人)、【4人暮らし】が 18.1% (93人) でした。なお、【1人暮らし】は 13.1% (67人) の回答でした。



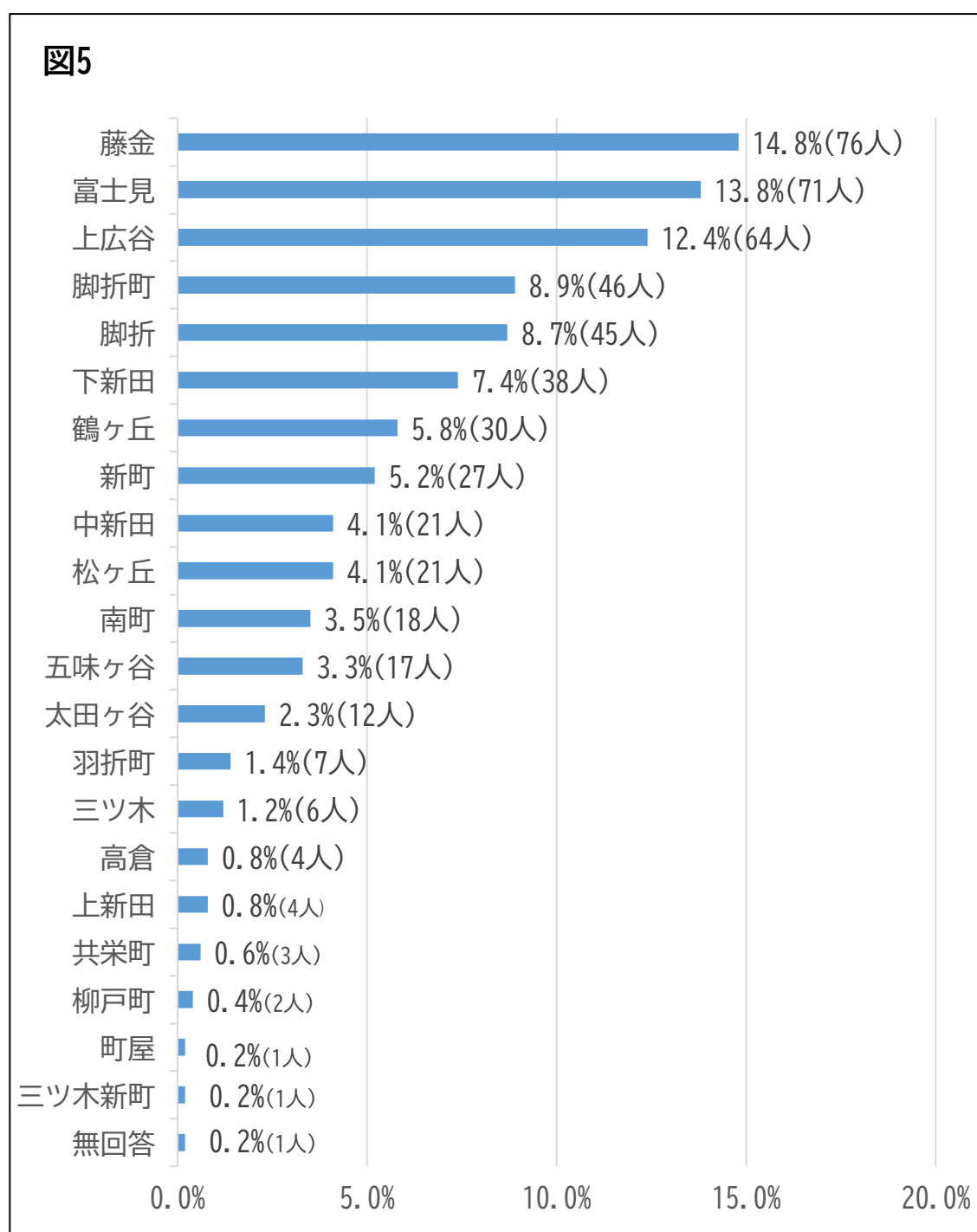
(4) 同居家族の構成について

回答者と回答者夫婦と子の核家族世帯が 40.6% (209人)、回答者夫婦のみが 28.0% (144人)、一人暮らしは 11.8% (61人)、回答者と回答者夫婦と親が 9.5% (49人)、回答者を含めて三世帯が 8.7% (45人)、その他が 1.0% (5人)、無回答が 0.4% (2人) の順でした。



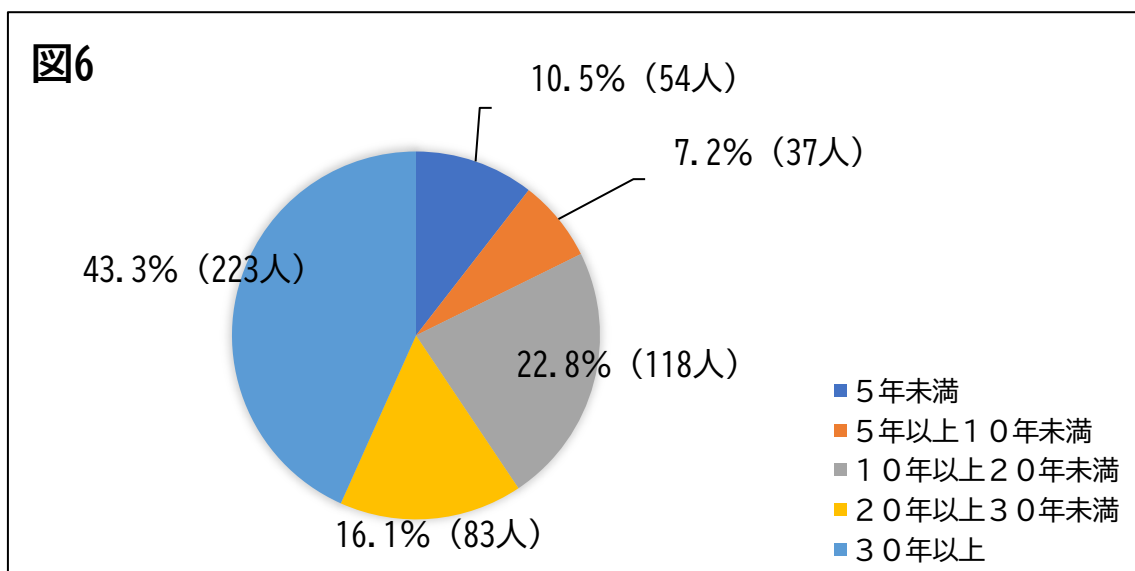
(5) 住んでいる地域の場所について

回答者が住んでいる地域は図 5 で示した通りです。多い順に「藤金」14.8% (76人)、「富士見」13.8% (71人)、「上広谷」12.4% (64人) が多い地域で、次いで「脚折町」8.9% (46人)、「脚折」8.7% (45人)、「下新田」7.4% (38人)、「鶴ヶ丘」5.8% (30人) の順になっています。回答の少ない地域では、「三ツ木新町」0.2% (1人)、「町屋」0.2% (1人)、「柳戸町」0.4% (2人)、「共栄町」0.6% (3人)、「上新田」0.8% (4人)、「高倉」0.8% (4人) 等でした。



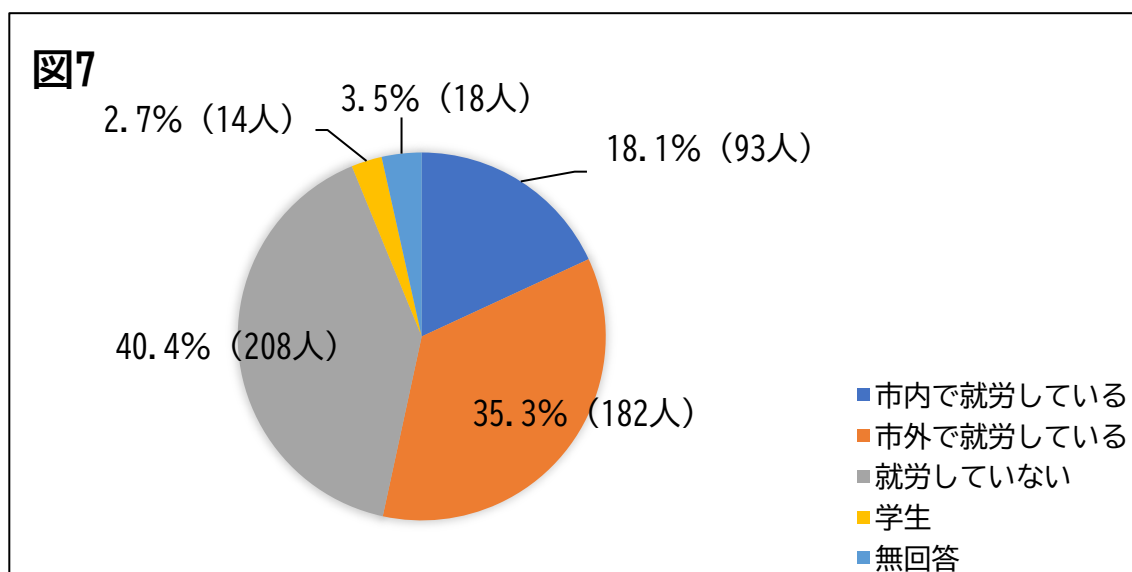
(6) 鶴ヶ島市に住んでいる期間について

30年以上が最も多く43.3%(223人)、次いで10年以上20年未満22.8%(118人)、20年以上30年未満16.1%(83人)、5年未満10.5%(54人)と続き、一番低いのは5年以上10年未満7.2%(37人)でした。全体の6割は20年以上住んでいる住民でした。



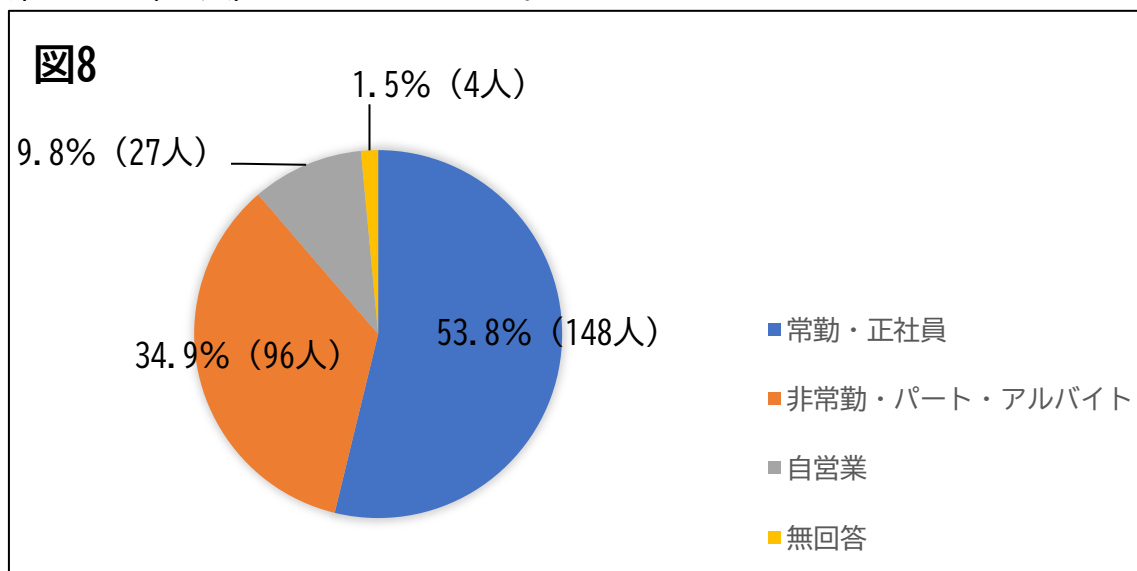
(7) 就労状況について

就労していない人は学生を含めると43.1%(222人)でした。就労している人は市内18.1%(93人)、市外35.3%(182人)でした。就労者は合わせて、53.4%(275人)となっています。市外就労者が市内就労者の倍の回答数でした。



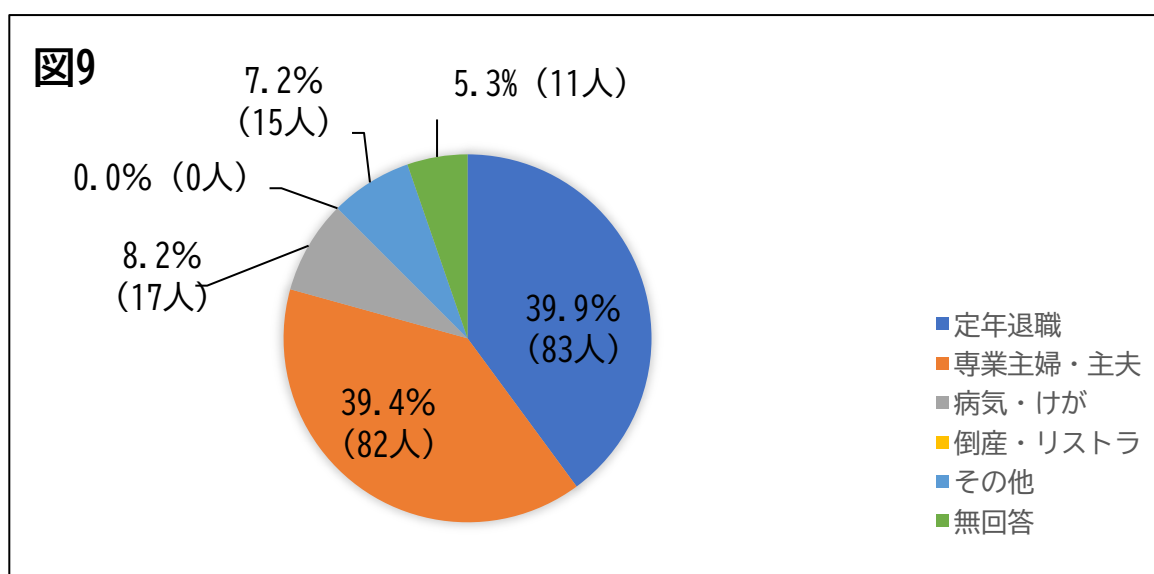
問ア：市内・市街で就労をしている方について、雇用・就労形態はどれかについて

就労者のうち雇用形態で見ますと、常勤正社員が 53.8% (148 人) と全体の半数以上を占めており、(非常勤・パート・アルバイト)は 34.9% (96 人)、自営業 9.8% (27 人) となっていました。



問イ：就労していない方へ就労していない理由はなにかについて

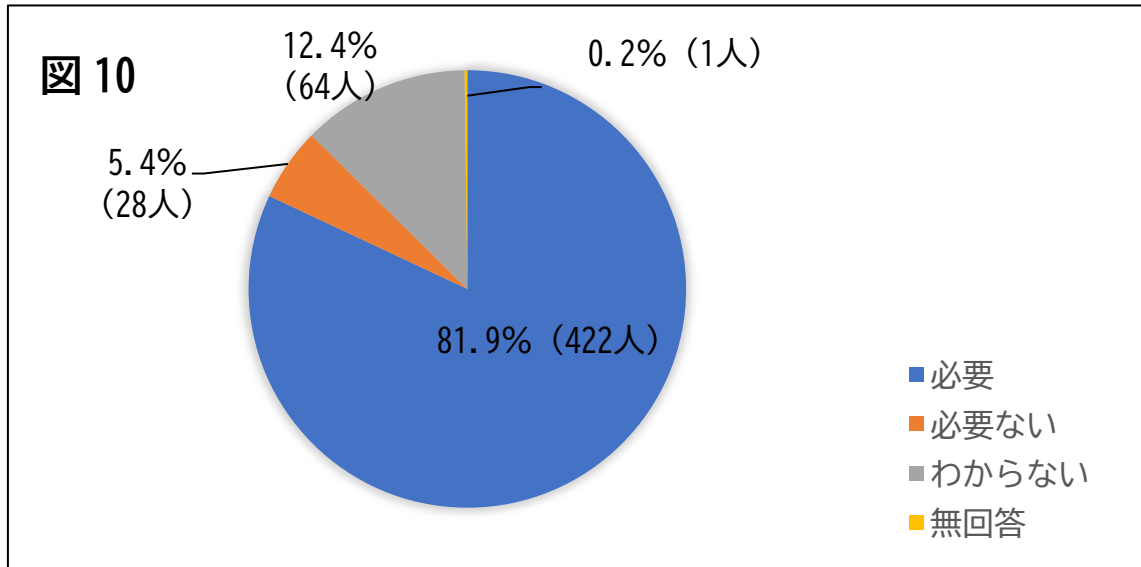
未就労者の内訳では、「定年退職者」が 39.9% (83 人)、「専業主婦・主夫」が 39.4% (82 人) とほぼ同数であり、「病気・けが」8.2% (17 人)、「その他」7.2% (15 人) 等でした。「倒産・リストラ」の回答者は 0% (0 人) でした。



2. あなたと地域のことについて、おたずねします。

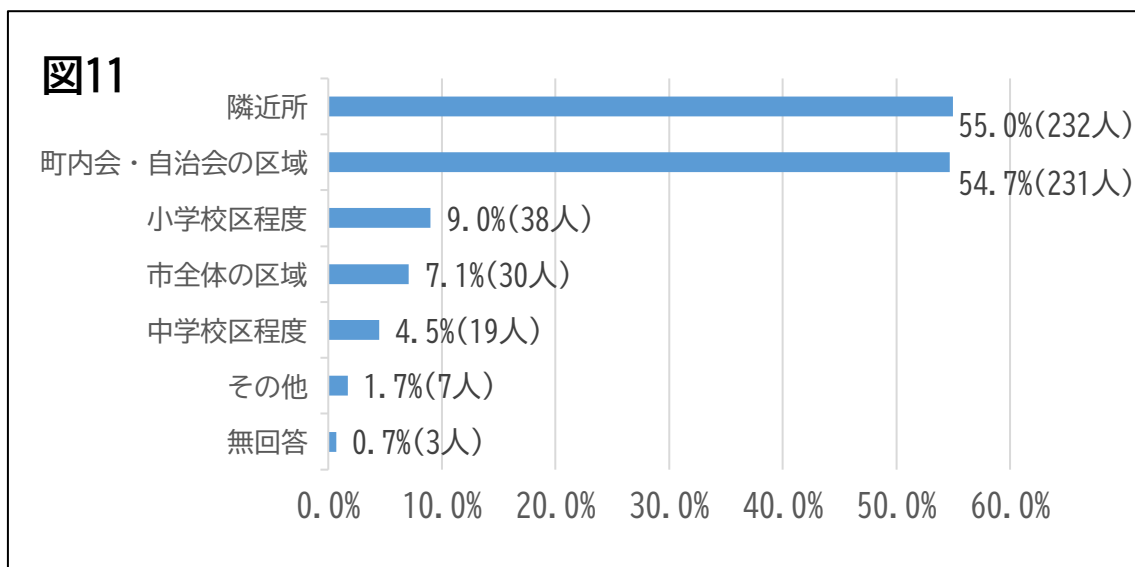
【問1-1】住民同士の支え合いについて必要かについて

住民同士の支え合いについて、「必要」は81.9% (422人)と回答しており、「必要ない」は5.4%(28人)の回答でもわかりますように、ほとんどの住民は必要だと認識していました。



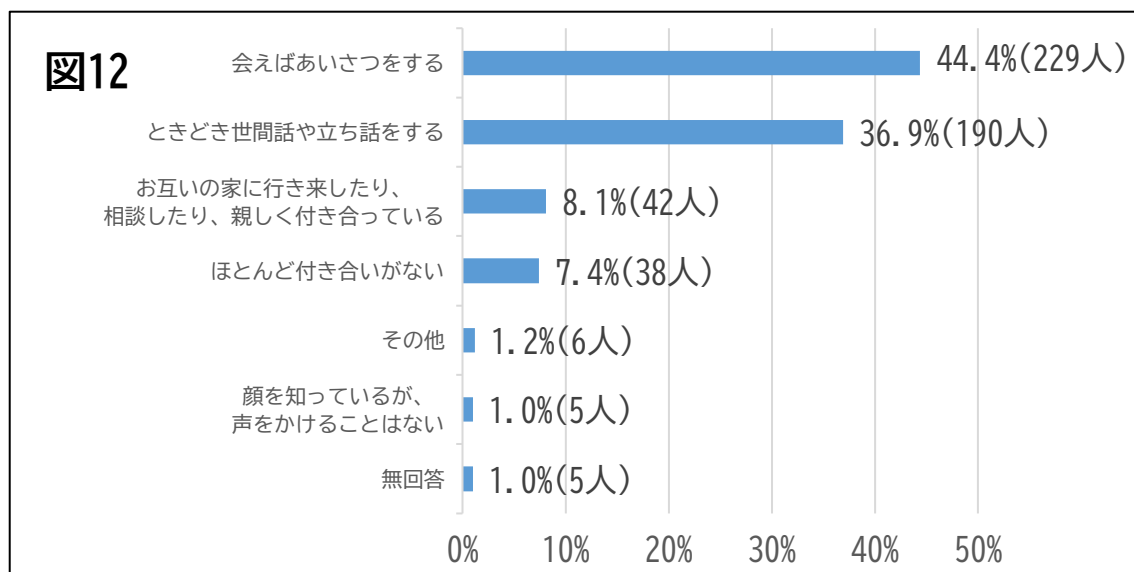
【問1-2】住民同士の支え合いができる「地域の範囲」について（複数回答）

地域の範囲については「隣近所」55.0%(232人)、「町内会・自治会の区域」54.7%(231人)と地域の捉え方は、大半の住民が「小地域」をイメージしていることがわかりました。「小学校区程度」9.0%(38人)、「市全体の区域」7.1%(30人)、「中学校区程度」4.5%(19人)と地域を広範囲に認識している住民の割合は少ないようでした。



【問2】あなたのご近所の方との交流関係について

近隣との交流関係については「会えば挨拶する程度」44.4% (229人)、「ときどき世間話や立ち話をする」36.9%(190人)が大半を占めていました。「ほとんど付き合いがない」7.4%(38人)及び「お互いの家に行き来したり、相談したり、親しく付き合っている」8.1%(42人)と疎遠な関係や親密な関係はともに極めて少ないことがわかりました。

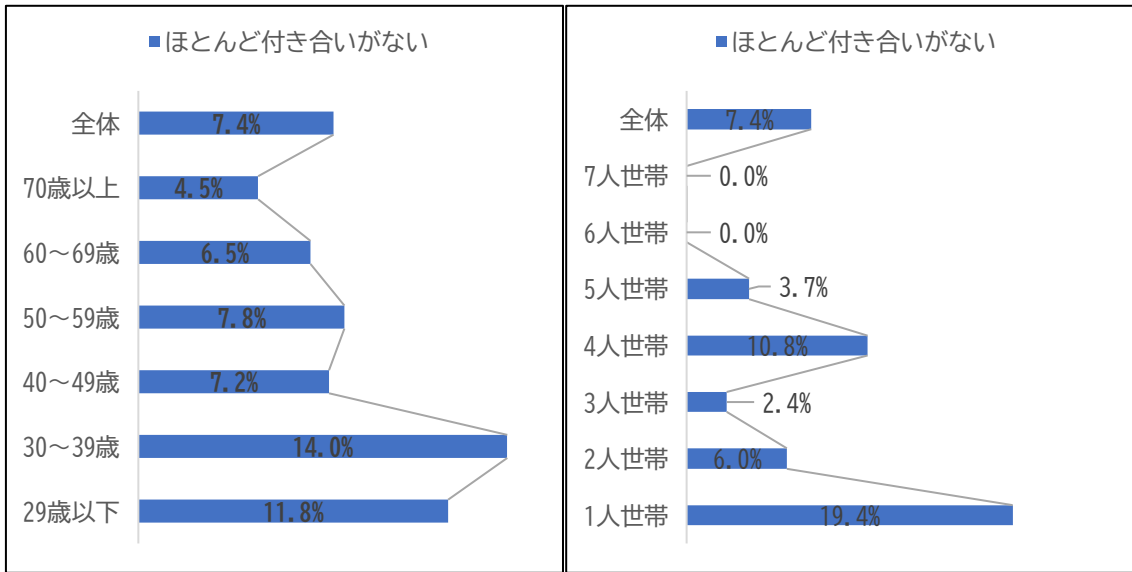


前回との比較では、選択肢と項目の表現は少し異なりますが、前回で「よく付き合っている」と回答した11.7%に対して今回は「お互いの家に行き来したり、相談したり、親しく付き合っている」が8.2%とやや少なくなっています。

また、前回の「ある程度付き合っている」45.8%に対して、今回の「ときどき世間話や立ち話をする」36.9%となっており、同じくやや少なくなっています。

しかし、前回の「付き合いがない」12.7%と比較しますと、今回の「ほとんど付き合いがない」「顔を知っているが、声をかけることはない」の2点の合計を合わせると8.4%となり、今回の「会えば挨拶する程度」44.5%に少し含まれている可能性があるため、大きな変化があるかどうかは不明です。

<前回調査と同様の比較>



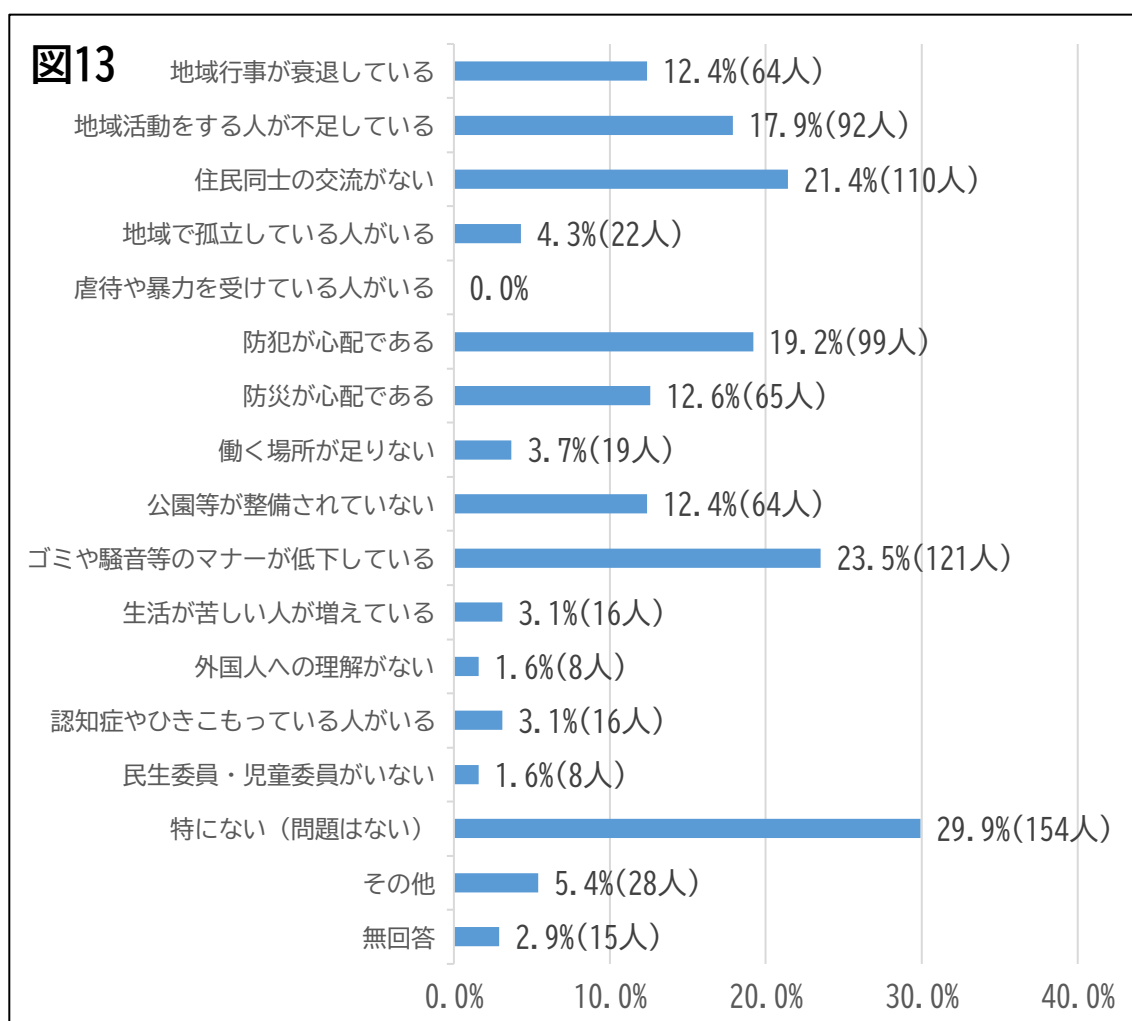
上記のように「ほとんど付き合いがない」を年代別で分析しますと、30歳以下の若い世代に近所付き合いが少なく、女性を含くめて就労層であることが伺えます。前回調査では、「付き合いが少ない」は、年齢が上がるとともに減少していく傾向が示されましたが、今回は30歳代が一番高く、次が29歳以下、50歳代と続き不均等でした。

また、世代別では、前回以上に単身世帯に特徴的なことが示されました。

【問3】お住まいの地域で、気になっていることについて（複数回答）

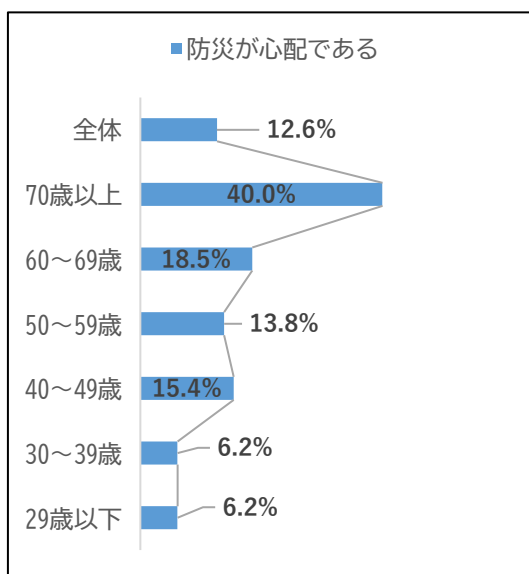
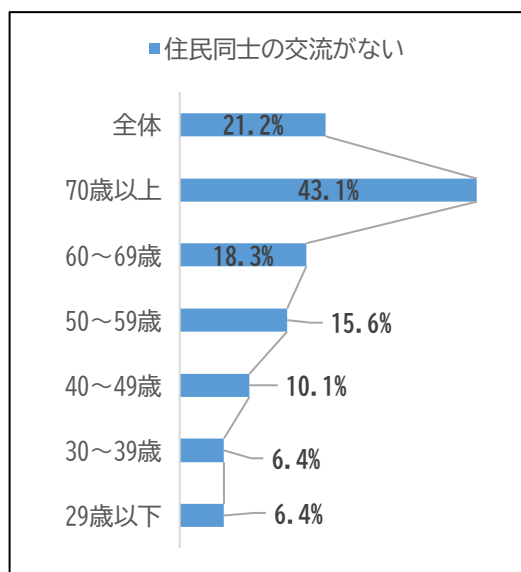
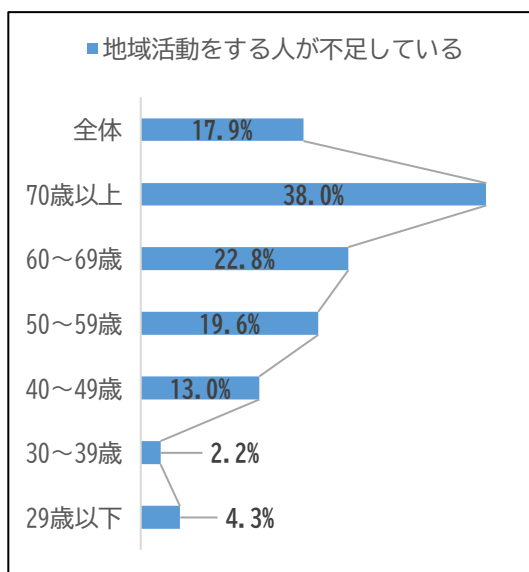
「特にない」を除くと一番多いのが「ゴミや騒音等のマナーが低下している」23.5%(121人)、次いで「住民同士の交流がない」21.4%(110人)、「防犯が心配である」19.2%(99人)、「地域活動をする人が不足している」17.9%(92人)等が主な気になっているところと回答しています。

二桁を超えている項目では他でも、「防災が心配である」12.6%(65人)、「地域行事が衰退している」12.4%(64人)、「公園等が整備されていない」12.4%(64人)等でした。



前回との比較では、前回「特にない（問題はない）」が28.1%と最も高かったと同じように、今回「特にない（問題ない）」も29.9%(154人)と最も高い回答でした。また、高い項目では前回と同じような傾向が見られました。

<前回調査と同様の比較>



年代別に分析しますと、「地域活動をする人が不足している」は、前回では50歳代に最も高く、次いで60歳代、70歳以上と続きましたが、今回調査では70歳以上が最も高く、年代が下がるに連れて低くなっていました。

「住民同士の交流がない」では、前は60歳代が最も多く、次いで50歳代、70歳以上で、40歳代が一番低かったのですが、今回は、70歳以上が最も高く、年代が下がるにつれて低くなっていました。「防災が心配である」では、前は40歳代が最も高く、次いで30歳代、50歳代と続き、70歳以上は最も低くなっていましたが、今回は70歳以上が最も高く、年齢が下がるに連れて低くなっていました。

【問3-1】特に気になること(自由回答)

(*詳細内容、一部抜粋(誤字脱字)については原文のままで修正していません。)

川崎、志木、川越と持ち家で移り住んできたが体育館、公民館などは充実していない。とくに市民の森等は市民の為にあるとは考えにくい、忘れているし、駐車スペースもない。とても散歩できる環境ではない。
住民同志の交流がないため、生活に困っている人、子育てに悩んでいる人に手をさしのべることができない。高齢になっても元気な人はおり、この人たちは生活の知恵も持っているのでお互いに助け合うことができるのではないか。
転勤組であったため赴任地ごとの町内活動はさまざまでありましたが、当地(永住地)に来て町内活動のない(当マンションの事情?)ことに気付き多少おどろいています。今迄の土地では町内会を通じて市報や回覧板が届き市の活動を知ることが出来ました。鶴ヶ島市では時折のアンケートにより市の行事計画を知ることが出来る程度であり行事を知ったときのほとんどは行事などが終了しているため参加したこと一度も有りません。鶴ヶ島市に来るまでは各市において〇〇教室など市民交流や市の歴史を学べけっこう楽しく参加することが出来ました。
せっかく東武東上線沿線の大学がたくさんあり、他の地域からの学生もたくさん1人暮らししているのに、交流がまったくないのはもったいないと思います。
地域行事を多くしてほしい。夏祭りや運動会、市内歩こう会など
街灯が非常に少なく、夜暗い道が多い ・地域活動をする方が高齢化している。次の世代が少ない
保健センターで実施している乳児の健診が負担。大事な事だと思うので受診したいが、交通手段が車前提なのか、その時間に到着するバスがない。市役所までの運行だったりするので行きはものすごく早い時間に到着して待つか、タクシーで行くしかない。乳児連れだと毎回本当に大変なので行くのが憂うつになる ・交通量が多いのは仕方ないが粗暴な運転が目立つ。歩行者の青信号を無視する車が多い
公園が少ない(藤金) あっても小さい ・上広谷児童館に遊びに行かせたいが道(歩道)がせまかったり信号までの距離が遠い。車の通りは多いのでこわい。そのため子供1人で遊び行かせるのに不安 ・地域行事はあるのか?認知すらしていません… ・防災の放送は響きすぎて何言ってるのかわかりません。本当に必要な事が聞けなかったらどうしようと思う。
自治会員の高齢化に伴い自治会活動が負担で自治会を脱会する人が出てきている。市役所から自治会に依頼、委託する事業は見直し、スリム化を図るべき。

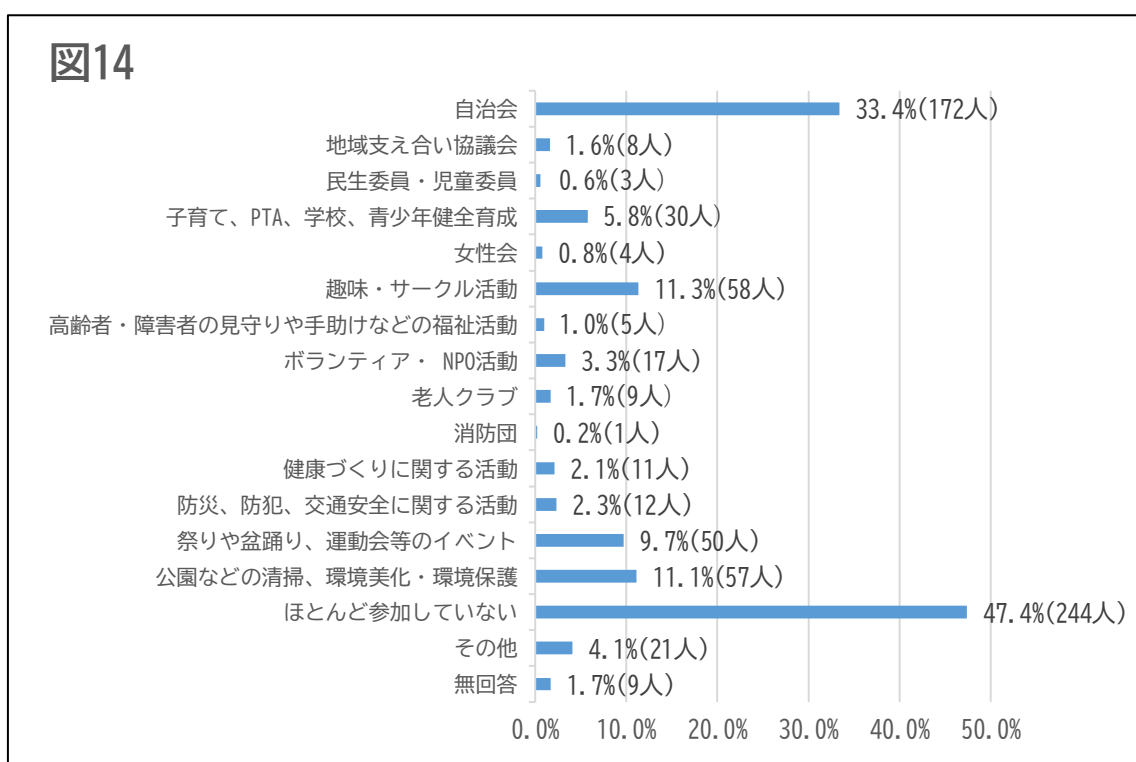
子供の通学路に指定されている交差点には、歩行者用信号だけでなく、自動車用の信号も両側に設置してほしい。

- ・富士見公民館（地）交差点：メイン道路のみ
- ・栄小学校前の交差点：メイン道路のみ

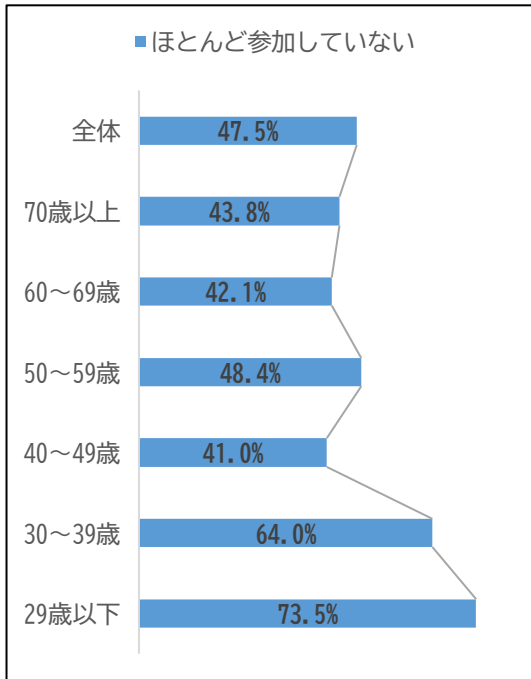
⑩、⑫ 外国籍住民が転入して来た場合、生活習慣の違いからなのか、深夜、早朝など時間帯を問わず騒音を発生させているが、仲介する適切な人がいない

【問4】現在、地域でどのような活動に参加しているかについて（複数回答）

現在の地域活動では「ほとんど参加していない」47.4%(244人)と一番多いですが、逆にみると約半数は何かの地域活動に参加しています。多い地域活動の順で示しますと「自治会」33.4%(172人)、「趣味・サークル活動」11.3%(58人)、「公園等の清掃、環境美化・環境保護」11.1%(57人)、「祭りや盆踊り、運動会等のイベント」9.7%(50人)、「子育て、PTA、学校、青少年健全育成」5.8%(30人)等でした。

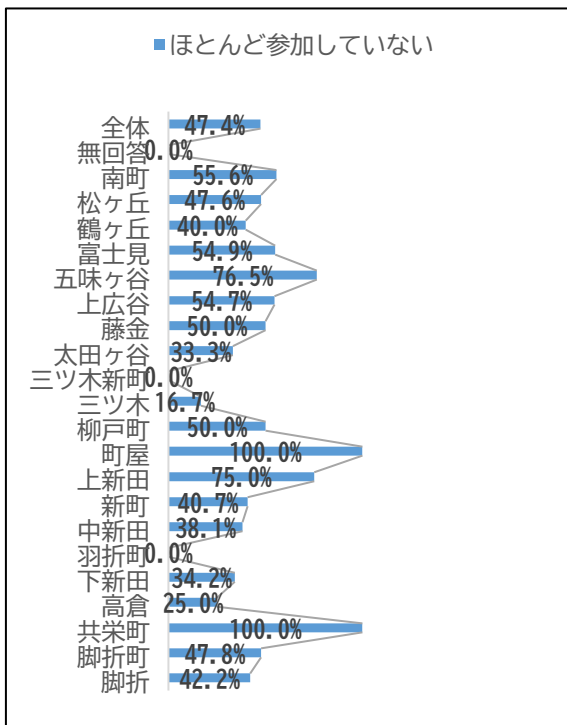


<前回調査と同様の比較>



年代別では、29歳以下が最も参加率が低く(73.5%)、次いで30歳代(64.0%)となっていますが、40歳代が一番低く(41.0%)となっています。

なお、前回との比較では、前回一番多かった「ほとんど参加していない」49.5%は、今回も47.4%と大きな変化はありませんでした。前は活動参加が一番高かった「自治会活動」30.0%は、今回も33.4%と大きな変化は見られませんでした。前回よりも低くなった項目では、「趣味・サークル活動」「老人クラブ活動」「ボランティア・NPO活動」などありますが、今回は項目の選択肢を増やしていますので、一概には比較できないと思われます。

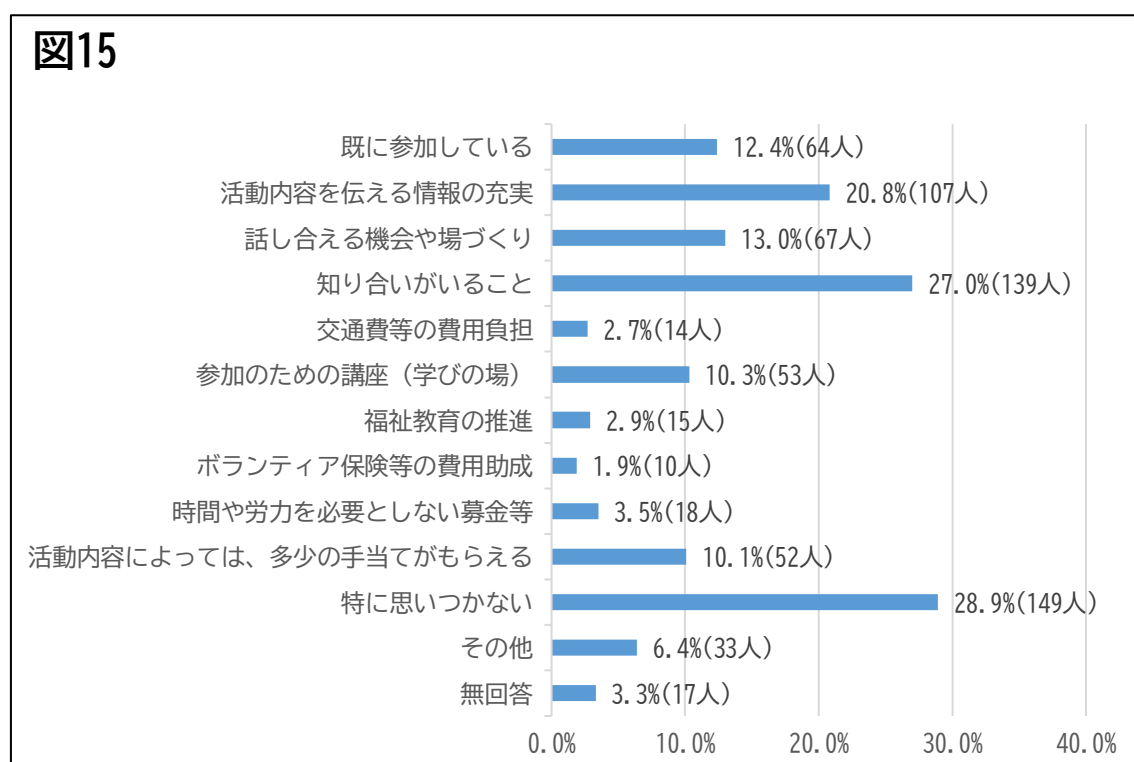


町別では、母数の住民数に10名以下の回答者の町も多くあり、一概には言えないと思われます。

【問5】どのようなことがあれば地域活動に参加しやすくなるかについて
(複数回答)

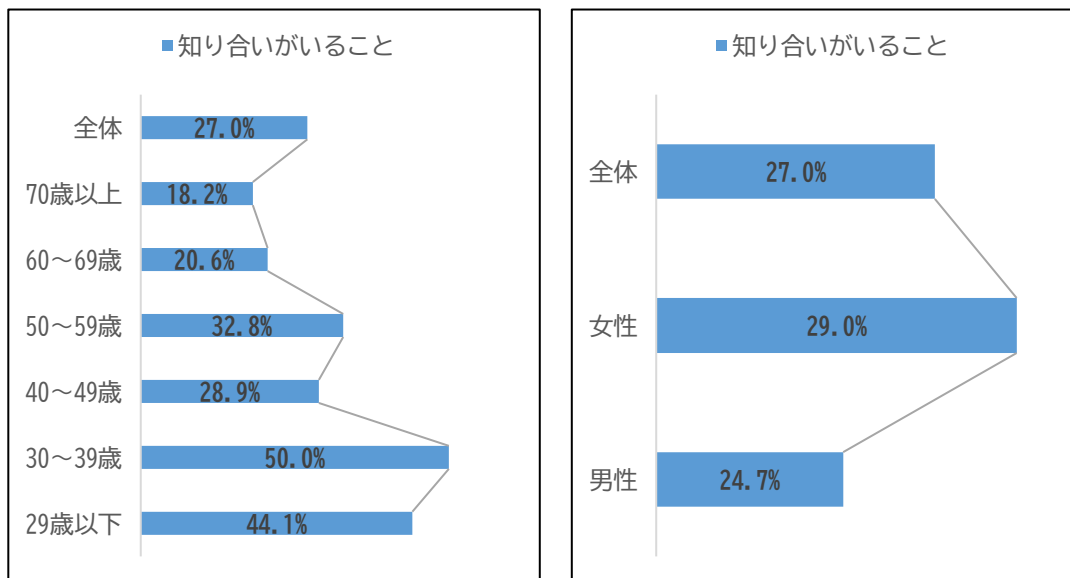
「特に思いつかない」28.9% (149人)及び「既に参加している」12.4% (64人)を除きますと、多い順に「知り合いがいること」27.0% (139人)、「活動内容を伝える情報の充実」20.8% (107人)、「話し合える機会や場づくり」13.0% (67人)、「参加のための講座(学びの場)」10.3% (53人)、「活動内容によっては、多少の手当てがもらえる」10.1% (52人)等となっています。

図15



上記結果を前回と比較しますと、「特に思いつかない」は、28.9%(前回 30.1%)と大きな違いはなく、「知り合いがいること」27.0% (前回 31.6%)、学習内容を伝える情報の充実」20.8% (前回 29.8%)「話し合いができる機会や場づくり」13.0% (前回 19.4%)「参加のための講座(学びの場)」10.3% (前回 18.2%)といずれも前回数値よりは下がっていますが、多い順には変化がありませんでした。今回は、「すでに参加している」「時間や労力を必要としない募金等」「活動内容によっては多少の手当てがもらえる」など選択肢を増やしたことによる影響と考えられます。

<前回調査と同様の比較>

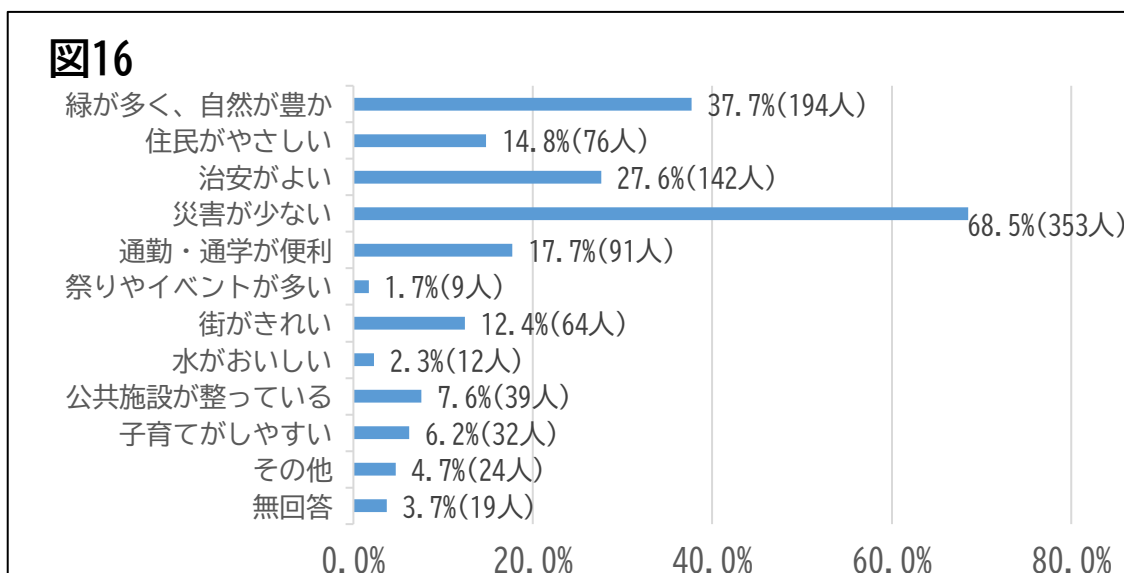


最も高い「知りがいること」を年代別に見ますと、30歳代が半数の50.0%、次いで29歳以下の44.1%、50歳代の32.8%と続き、40歳代と60歳代以降が低くなっています。また、女性のほうが男性より「知りがいること」と回答した割合がやや高くなっていました。

【問6】まちの自慢や良さは何かについて（複数回答）

10%以上の項目を挙げますと「災害が少ない」が68.5%（353人）と他の項目と比較して群を抜いて多く、次いで「緑が多く、自然が豊か」37.7%（194人）、「治安が良い」27.6%（142人）等が示されました。これらの項目は鶴ヶ島市の強み（ストレングス）を表しています。

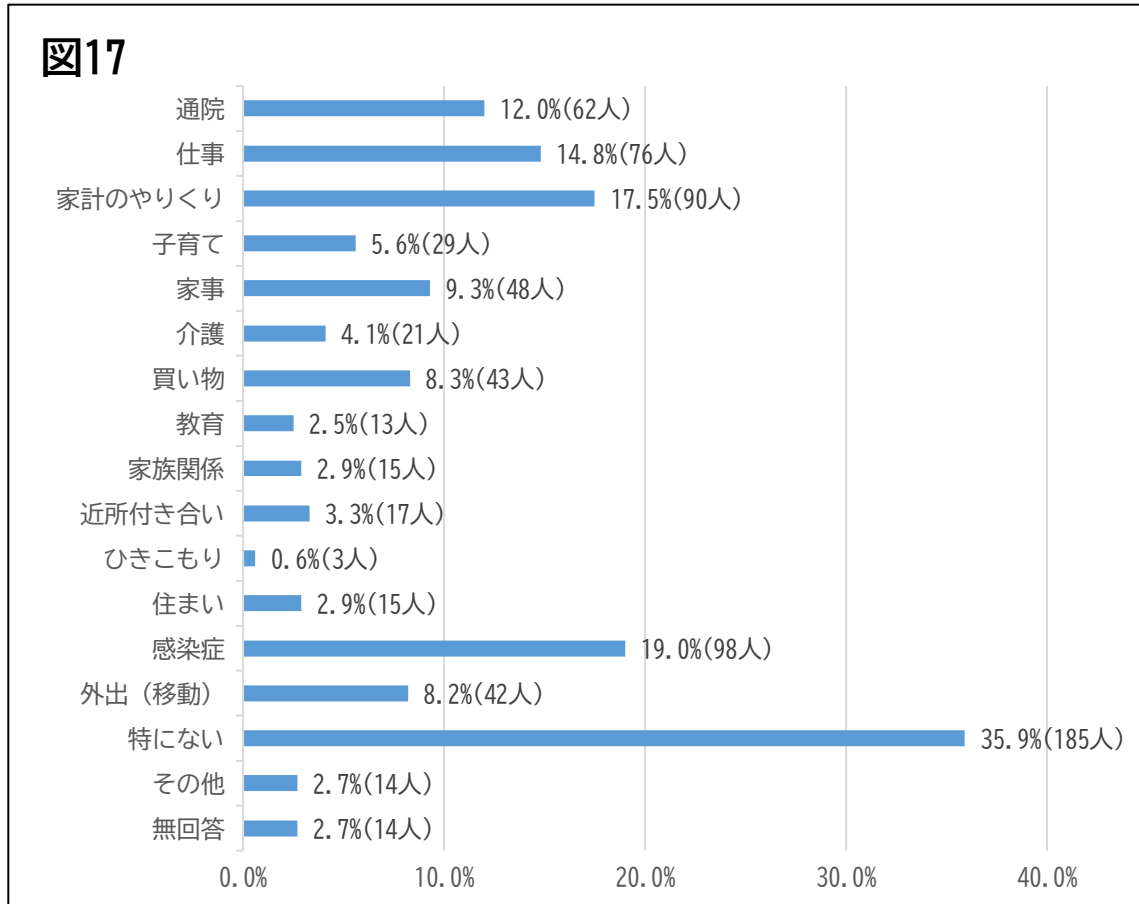
少ない項目では、「祭りやイベントが多い」1.7%（9人）、「水がおいしい」2.3%（12人）、「子育てがしやすい」6.2%（32人）、「公共施設が整っている」7.6%（39人）と低い項目も示されました。これらの項目は鶴ヶ島市の弱み（ウィークネス）を表しています。



3. 普段の暮らしなどについておたずねします

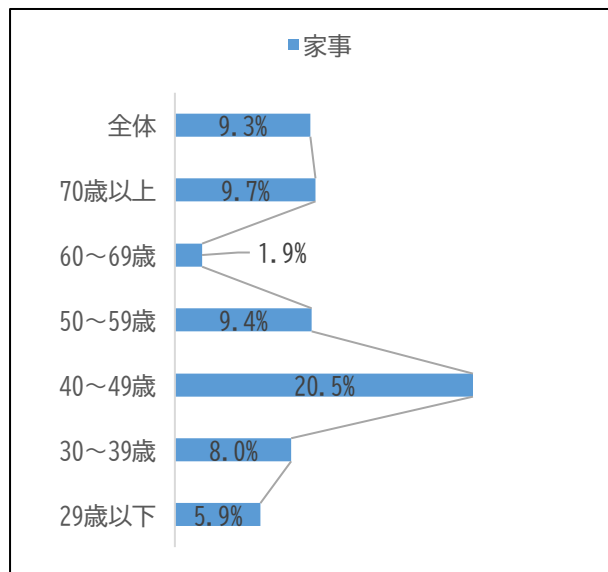
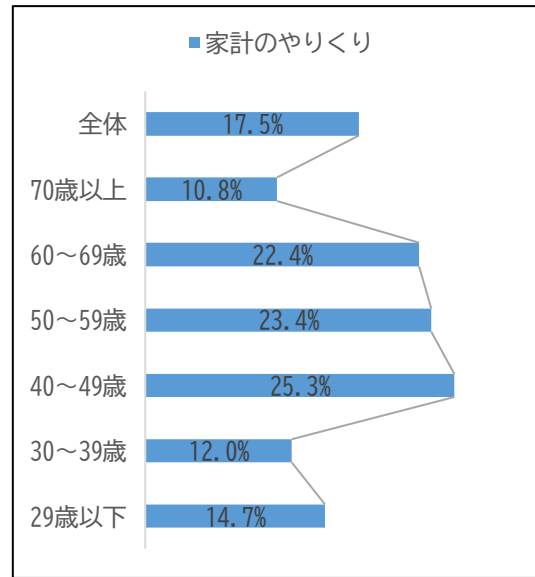
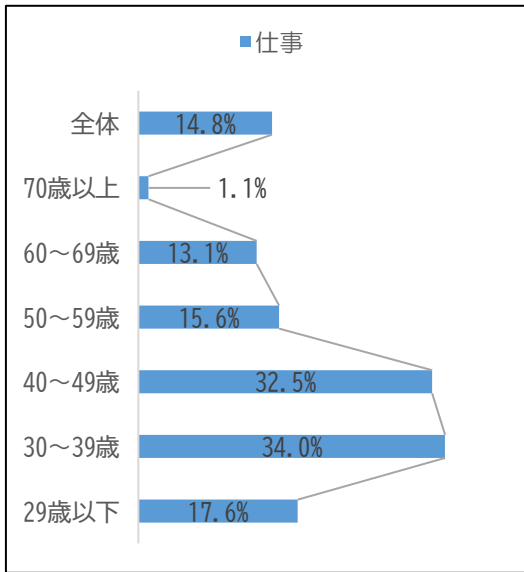
【問7】 日常生活で大変さを感じることはどれかについて（複数回答）

「特にない」を除きますと、「感染症」19.0%（98人）、「家計のやりくり」17.5%（90人）、「仕事」14.8%（76人）、「通院」12.0%（62人）等が示されました。



前回との比較では、「特にない」35.9%（前回 33.5%）が一番多く、大きな違いはありませんでした。日常生活での大変さは、前はなかった「感染症」が今回は一番多く、大きな違いでした。「家計のやりくり」（前回 28.0%）「仕事」（前回 17.9%）「通院」（前回 12.6%）などは、数値が下がっていますが、今回も同じような傾向が示されました。

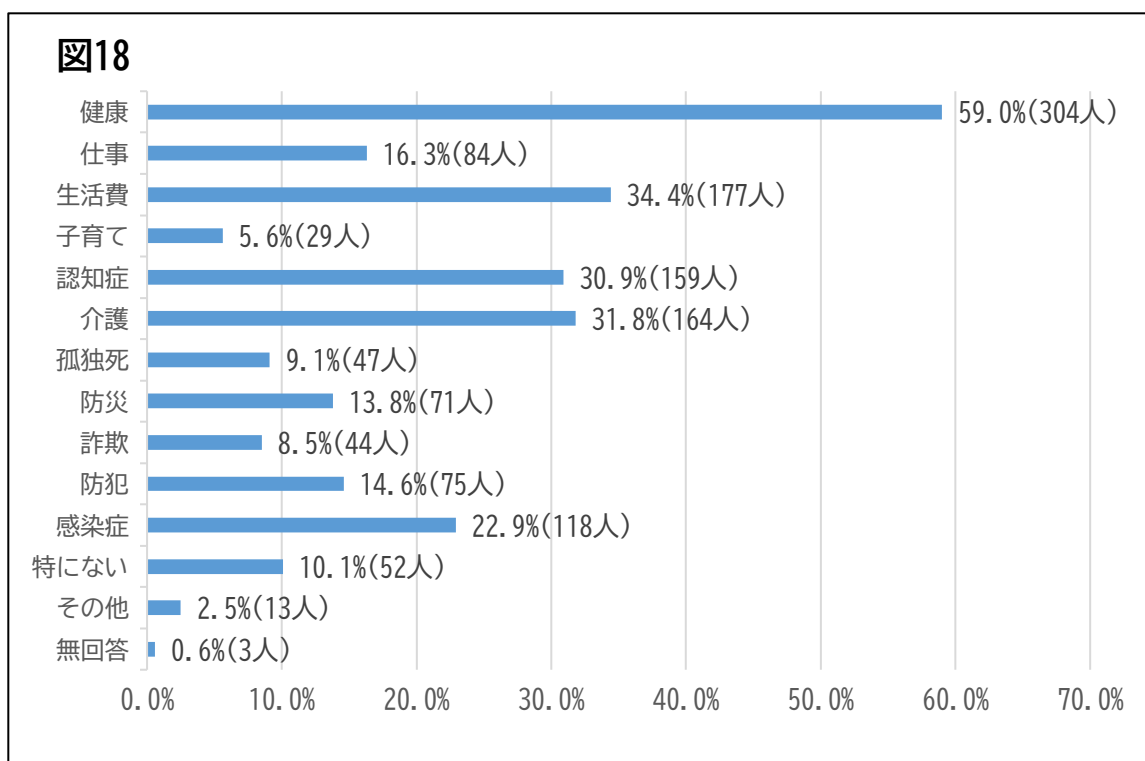
<前回調査と同様の比較>



日常生活で大変さを感じている項目で多かった3項目を前回と比較しますと、「仕事」は前回同様に30歳代、40歳代に多い傾向は同じでした。「家計のやりくり」は、今回は40歳代、50歳代、60歳代がほぼ横並びで高い結果でしたが、前回は60歳代が、少なく30歳代が40歳代に続き、50歳代と横並びでした。「家事」は、今回は40歳代が最も高かったのですが、前回は30歳代が最も高い結果が示されました。

【問8】 将来に向けて不安に思うことについて（複数回答）

将来の不安で最も多いのは、「健康」59.0%（304人）でした。次いで、多い順に挙げますと「生活費」34.4%（177人）、「介護」31.8%（164人）、「認知症」30.9%（159人）、「感染症」22.9%（118人）、「仕事」16.3%（84人）等が主なものでした。



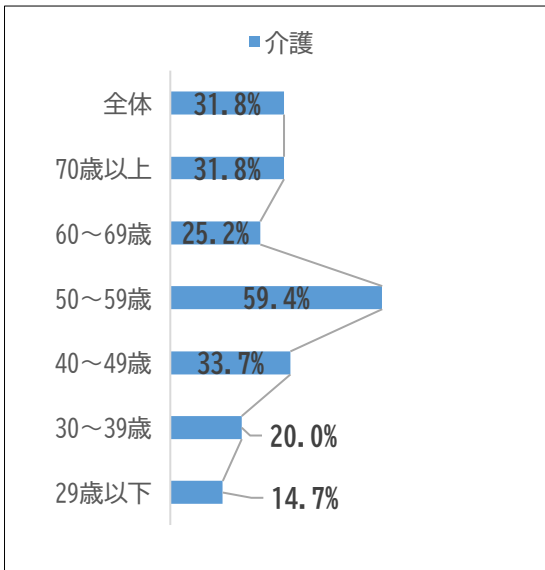
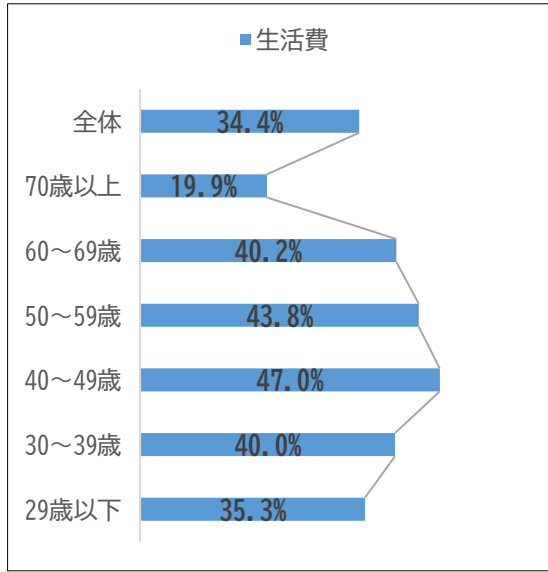
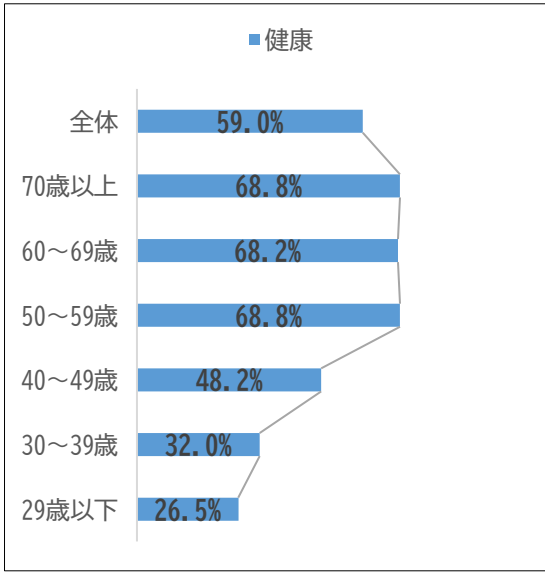
前回との比較では、「健康」が前回 66.5%と最も高く、次いで「介護」「生活費」「認知症」「仕事」と続きましたが、今回は「生活費」「介護」と順位は入れ替わりました。後の「認知症」「仕事」の順位は同じでした。また、前は回答になかった「感染症」が今回は5位に入りました。全体として各項目に示された数値は下がっていますが、これは「感染症」という項目が増えた影響と考えられます。

前回と「健康」「生活費」「介護」を年代別で比較しますと、健康は前回同様に50歳代、60歳代、70歳以上がほぼ同じく「不安」と感じており、50歳代、40歳代、29歳以下と年齢が下がるに連れて減少しています。

「生活費」は70歳以上にやや低い傾向は前回と同じでした。他の年代の傾向は同じですが、今回は前回以上に「不安」を感じている市民が多いことを示していました。

「介護」は、前回以上に50歳代に他の年代層と比較して大きな山があることが示されました。

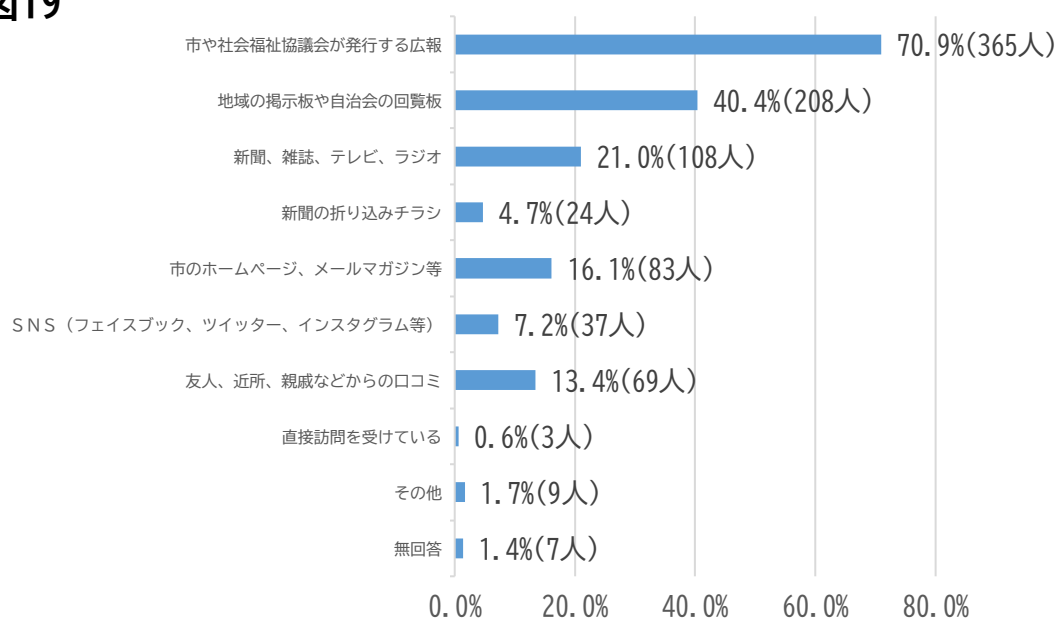
<前回調査と同様の比較>



【問9】地域や福祉の情報をどのように得ているかについて
(よく使うものを2つ)

情報の入手先は、「市や社会福祉協議会や発行する広報」が70.9% (365人)と最も多く、次いで「地域の掲示板や自治会の回覧板」40.4% (208人)となっていました。「新聞、雑誌、テレビ、ラジオ」21.0% (108人)、「市のホームページ、メールマガジン等」16.1% (83人)などが続きます。また、「友人、近所、親戚などからの口コミ」13.4% (69人)、「SNS(フェイスブック、ツイッター、インスタグラム等)7.2% (37人)等は意外に活用されていませんでした。

図19

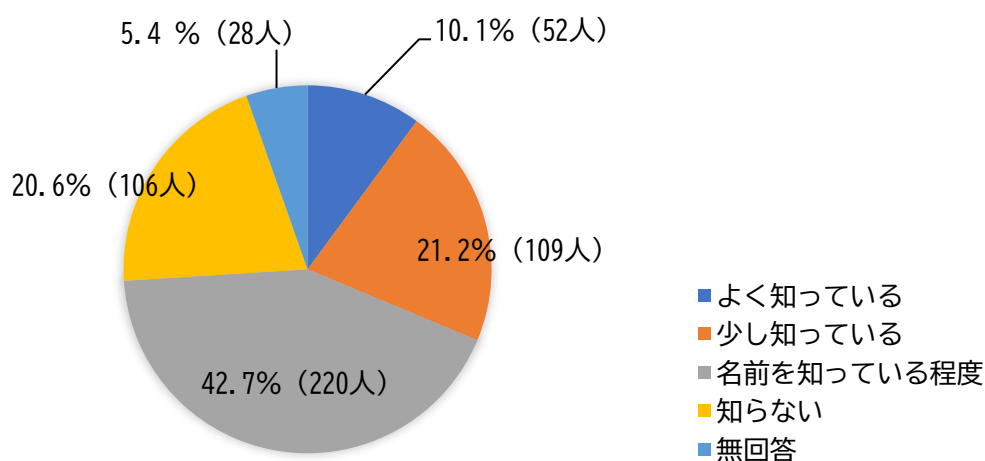


【問10】福祉に関する相談支援機関を知っているか

問10-ア

社会福祉協議会の認知度は「よく知っている」10.1%(52人)、「少し知っている」21.2%(109人)を合わせると市民3人に1人は認知されていました。「知らない」は20.6%(106人)と5人に1人おり、「名前を知っている程度」は42.7%(220人)でした。

図20. 社会福祉協議会

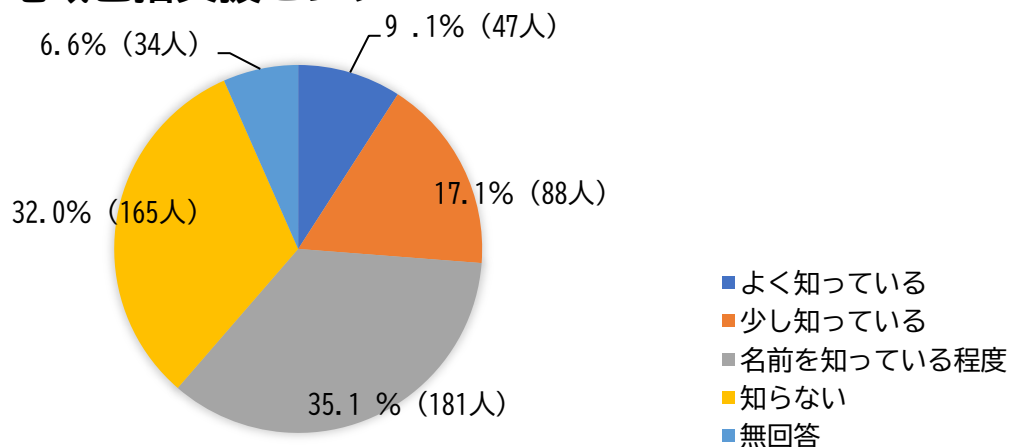


問10-イ

地域包括支援センターの認知度は「よく知っている」9.1%(47人)、「少し知っている」17.1%(88人)と合わせて市民4人に1人は認知していました。

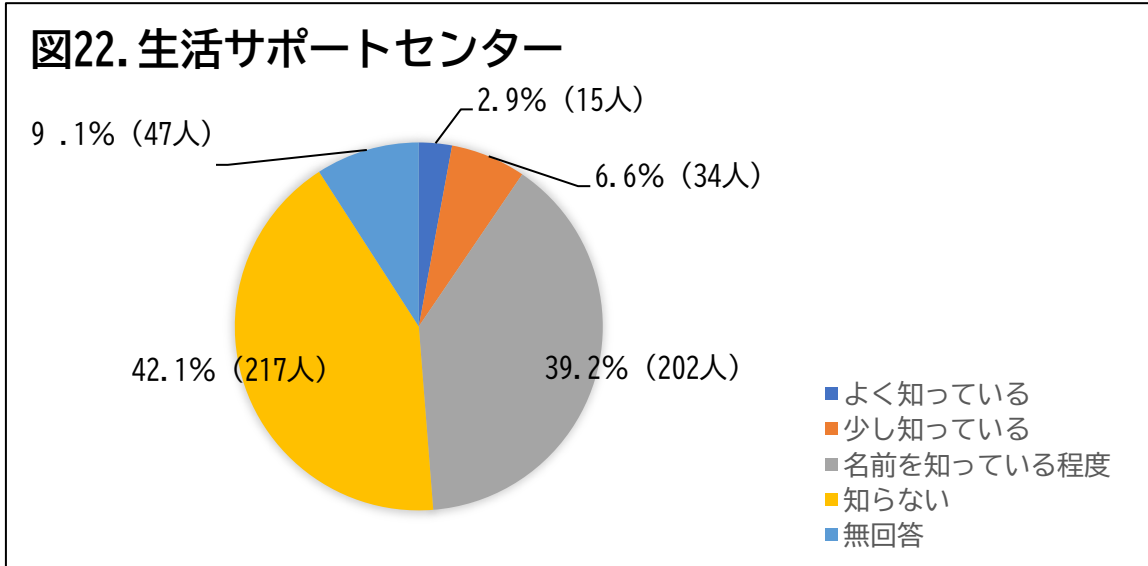
「名前を知っている程度」は35.1%(181人)と3人に1人であり、「知らない」32.0%(165人)もほぼ3人に1人でした。

図21. 地域包括支援センター



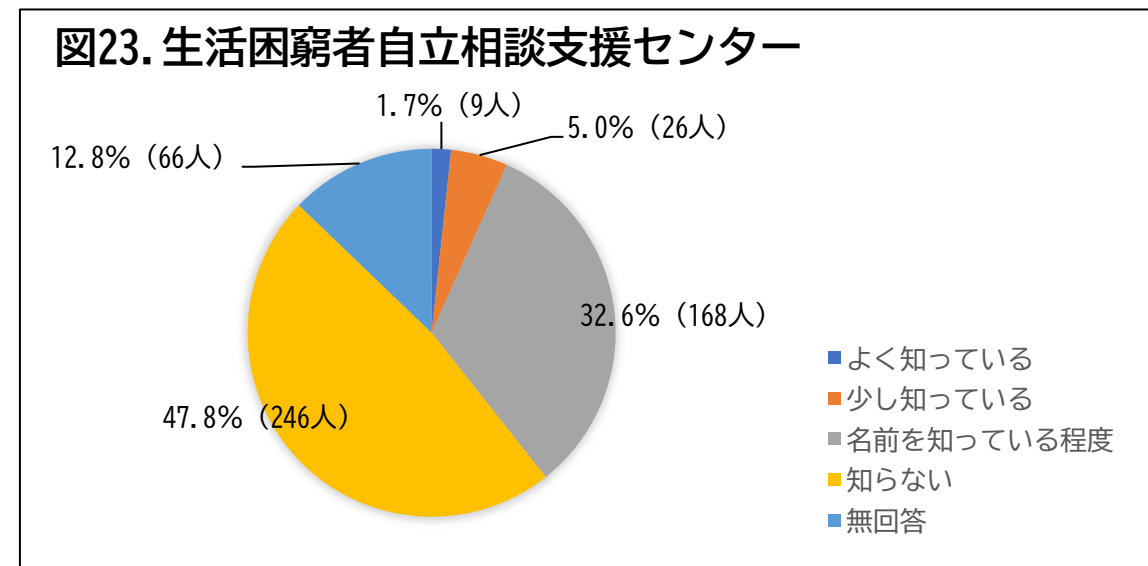
問10-ウ

生活サポートセンターは「よく知っている」2.9%(15人)、「少し知っている」6.6%(34人)を合わせても10%未満(49人)であり、あまり知られていませんでした。なお、「名前を知っている程度」は39.2%(202人)いました。



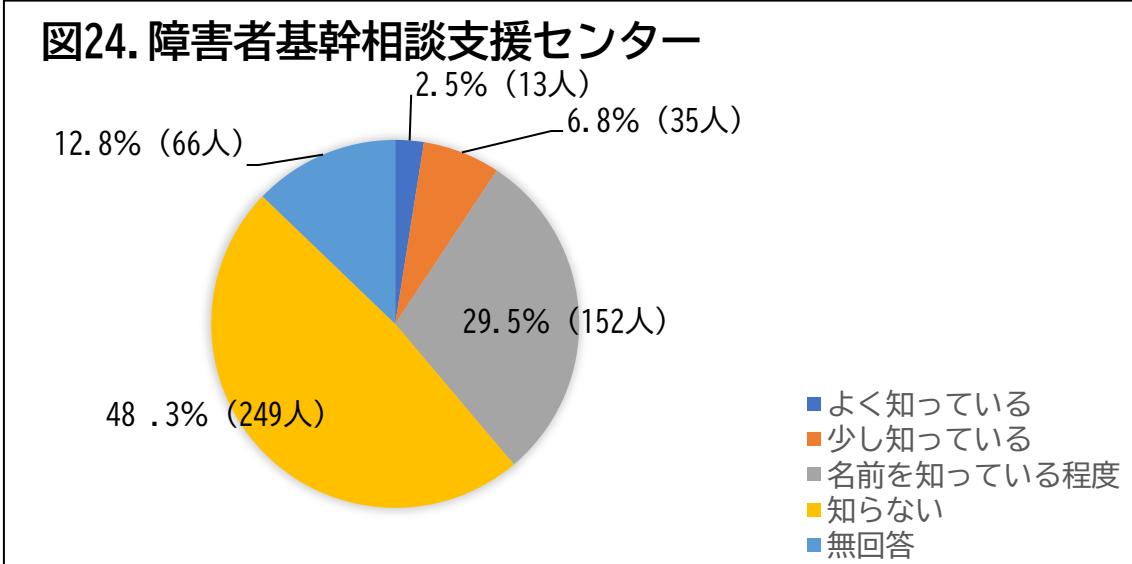
問10-ウ-1

生活困窮者自立相談支援センターは半数近くの人には知らないと回答しており、「よく知っている」「少し知っている」を合わせても6.7%(35人)と少ない回答でした。



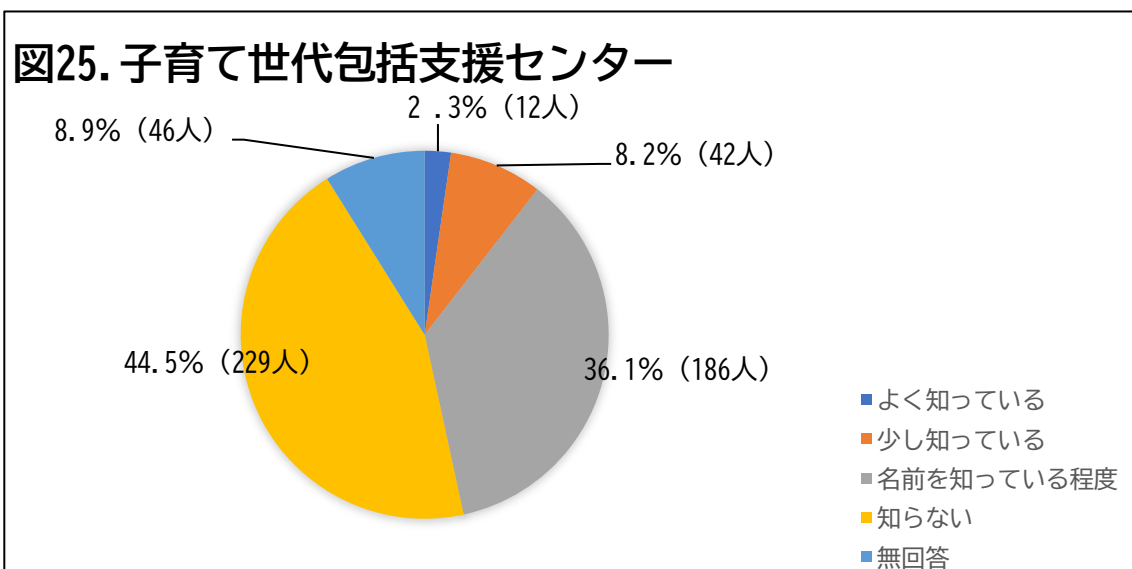
問10-ウ-2

障害者基幹相談支援センターは約半数が名前を知っている程度でした。「よく知っている」「少し知っている」を合わせても9.3%(48人)と一桁の割合でした。



問10 エ

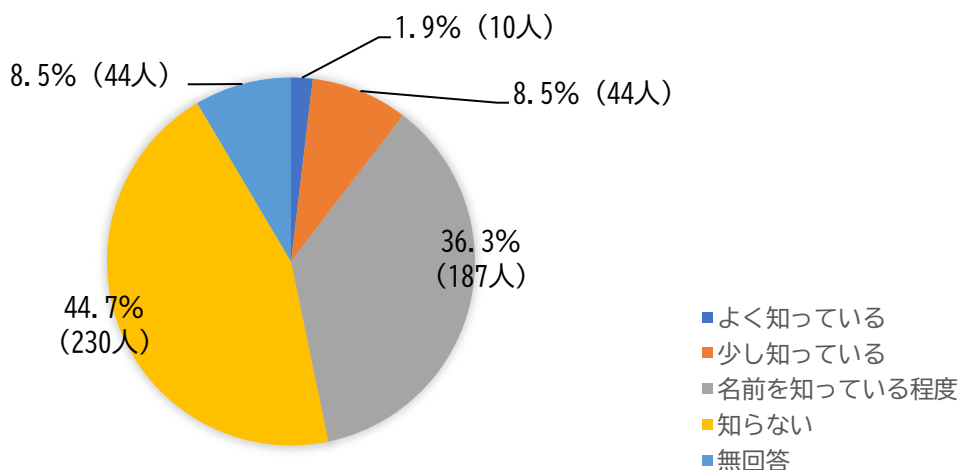
子育て世代包括支援センターは「よく知っている」2.3%(12人)、「少し知っている」8.2%(42人)と多くはありませんでしたが、「名前を知っている程度」は36.1%(186人)で、44.5%(229人)が「知らない」と回答しました。



問10 才

児童・家庭総合相談窓口は「よく知っている」1.9%(10人)、「少し知っている」8.5%(44人)を合わせて1割程(10.4%)でしたが、「名前を知っている程度」は36.3%(187人)でした。

図26. 児童・家庭総合相談窓口

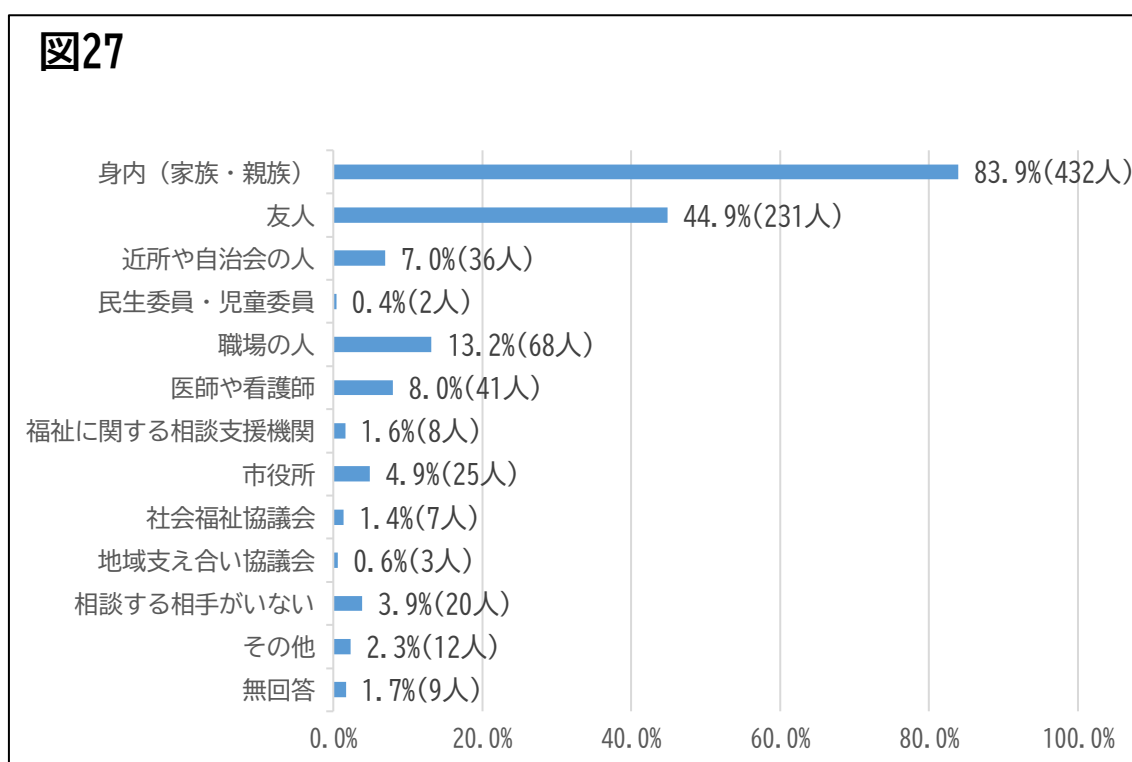


問10 まとめ

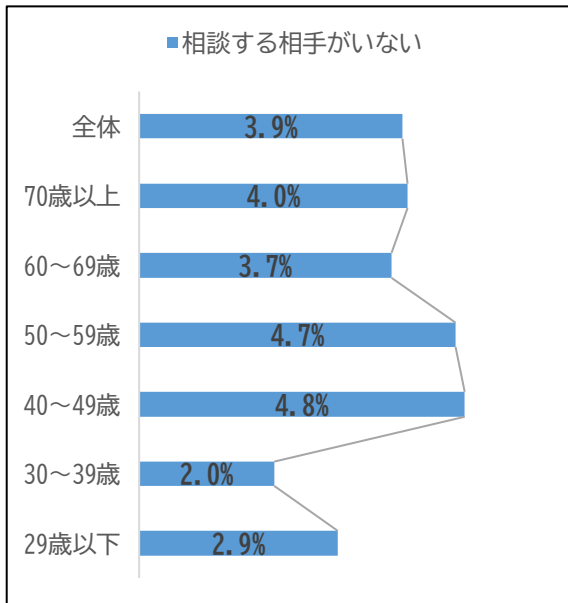
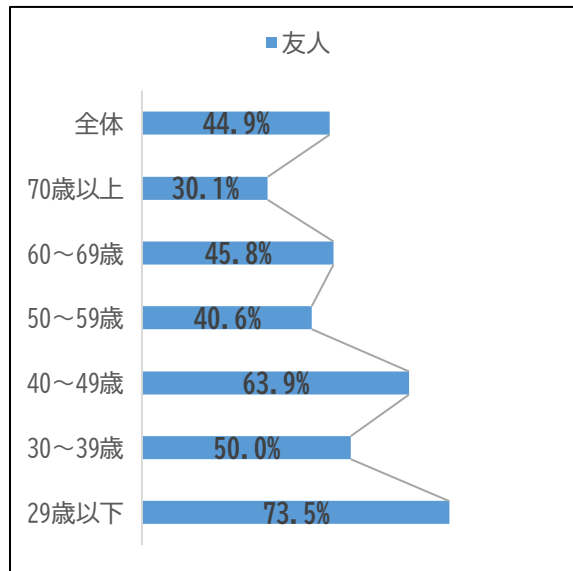
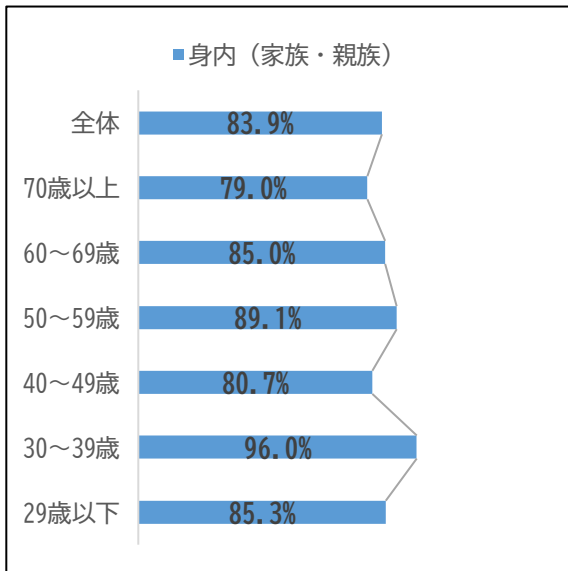
以上を見てきましたように生活サポートセンター、生活困窮者自立相談支援センター、障害者基幹相談支援センター、子育て世代包括支援センター、児童・家庭総合相談窓口などは、対象別相談機関であり、関係者以外が知らないのはある意味当然でしょう。その意味では、社会福祉協議会や地域包括支援センターは相対的に認知度が高いとも評価できます。特に地域包括支援センターは高齢者の相談に対応した専門機関ですが、高齢者の人数が多いことだけでなく、地域単位の設置されてきたことや、8050問題に代表されるように複合的な課題にも対応する窓口として市民の期待が高いことが示されました。

問11. 普段、悩み事や困りごとを誰(どこ)に相談するかについて(複数回答)

相談で最も多いのは、「身内(家族・親族)」の83.9%(432人)でした。次いで「友人」44.9%(231人)、「職場の人」13.2%(68人)と普段の身近なインフォーマルな人々が多いことが示されました。「医師や看護師」8.0%(41人)を除きますと公的な機関である「市役所」4.9%(25人)、「社会福祉協議会」1.4%(7人)、「福祉に関する相談支援機関」1.6%(8人)とフォーマルな機関に関する相談は少ない結果が示されました。



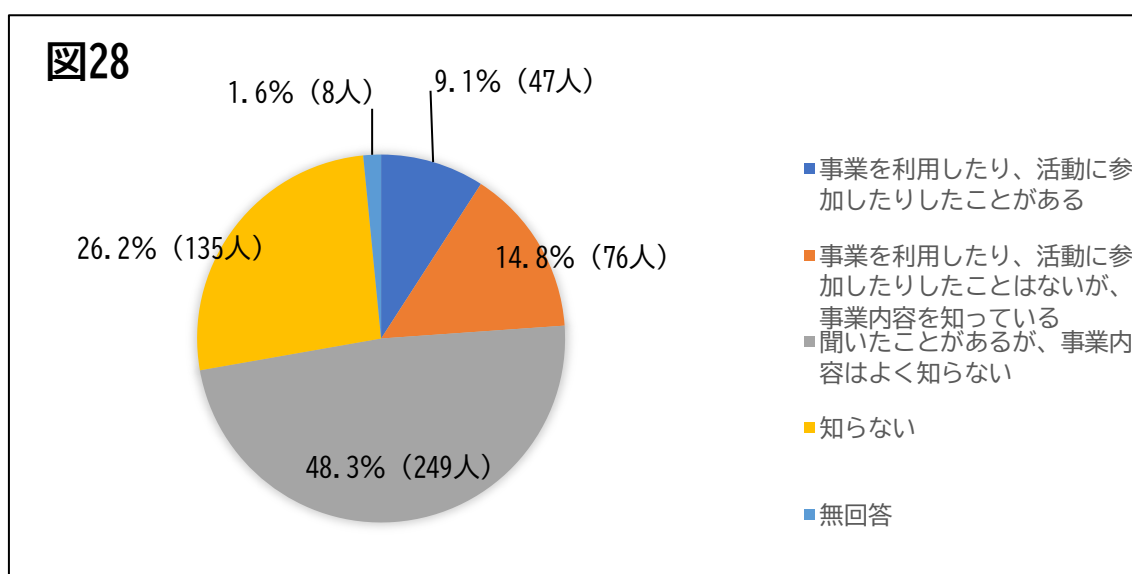
<第2次計画と同様の比較>



相談の多かった「身内（家族・親族）」を年代別で見ましたが、30歳代にやや多い傾向はありますが、大差はありませんでした。「友人」では、逆に30歳代はやや少なく、29歳以下と40歳代に多い傾向がありました。また、「相談する相手がいない」では、30歳代が最も多く、次いで29歳以下となっていました。

問12. 社会福祉協議会の事業内容について知っているか

社会福祉協議会の事業内容については、「事業を利用したり、活動に参加したことがある」9.1%(47人)、「事業を利用したり、活動に参加したりしたことがないが、事業内容を知っている」14.8%(76人)を合わせますと4人に1人は知っていると回答していました。「聞いたことがあるが、事業内容はよく知らない」は48.3%(249人)と約半数が回答しており、それらの人々に関する広報活動が今後重要だと思われます。



【問13】誰もが地域で幸せに暮らせるために、こんなことができたというアイデアについて(自由回答)

*詳細内容(一部抜粋、個人情報削除していますが、後は原文のまま)

<p>社会福祉協議会とは直接関係無いかも知れませんが自治会、会館をもっと開放的に一般人に利用させて欲しい。現在私の住む藤金自治会館は大きく立派な建物であるが、月1回の自治会の役員会の集まり程度の利用だけでは無いと思う。安価な有料でも良いと思うので、趣味、サークル、他の市等では冠婚葬祭に利用しているところもある。現況は何のための自治会館が非常に疑問である。</p>
<p>駅前などでお祭りなどの楽しめる催し物があつたらうれしい。</p>
<p>地域活動(街の清掃活動など)、自治会活動など参加する、しないでもめ事がおこる。もっと活動を縮小して最低ラインでの活動でよいと思う(イベントはいらない)特に今年は何も活動ないのに自治会費徴収はおかしいと思う。祭りや運動会、他イベントは年々参加者も少なく希望者も少なくなっている。その分の費用を防災、防犯、街の整備などにまわしてほしい。</p>
<p>やはり、人と人との接点があることに限ると思います!!時代の流れと共に、ますます、直接、人と会って顔を見ながら、話す機会が減っている。 最近、オンラインというものを使ってもいいと思うので、とにかく、隣にどんな人がいるのか、この地域にはどんな人がいるのか、ということを知る。知ろうとすることがこれからの明るい市の未来、誰もが、安心してここに住んでいてよかった。ここにいると(住んでいると)寂しくないなと思えることで、市のエネルギー値も高くなり、万が一の起こらなくてもいい悲しい事件や悲しい現実が起こらずに済むかもしれない。とにかく、人と人との接点、つながりが盛んになれば幸せに暮らせる人がふえると思います!!期待していますし、協力したいと思っている方、(子育てママの)私も含めて、呼びかければ、必ず役に立てる人がいるはずです!!</p>
<p>半年前ほどに近所で亡なつた方がいました。その方は一人で家の中で誰にも気づかれずに亡なつており私の隣の家の方が発見しました。孤独死は人との関わりがなくなることで必ず起きると思います。なので地域のラジオ体操や活動を週に1回でも行いコミュニケーションを取ることが必要だと考えます。</p>
<p>市内のコロナ対応が出来る病院の充実を希望します。</p>
<p>社会福祉協議会の方でも、自治会の方でもどなたでも良いが、困つたことがあつたら相談できる方。あるいは地域包括支援センターや民生委員などの連絡先を住民に周知させることが必要なのではないか?皆さん、どこに連絡すれば良いかご存知ないのでは…?</p>
<p>図書館や、市民センターなどの既にある施設を使って、演劇の手法を用い、プロとは違う、市でやるという特性を生かして、子供から老人までが参加する交流の大きい演劇ができると、地域の活性化には大いに役立つと思う。市の企画という点で、年齢に幅のある人材が集まると思う。</p>

<p>人が多く集まる若葉ウォークの一角に高齢者の方々が自由に集まり休憩できる集会所の様な場所があると良いのになあと考えています。公民館とか団地にも有るかも知れませんが特定の方の場所でなく自由に使用できる交流の場が近くに有ればと考えています。清掃や片付け等むずかしい面も有るとは思いますがその様な場所であればボランティアで参加してみたいと考えています。</p>
<p>・コロナで大変だとは思いますが「つるフェス」を毎年楽しみにしていました。また開催して下さる日を楽しみにしています。</p> <p>・鶴ヶ島運動公園でラジオ体操や太極拳をやる</p> <p>・せっかく広い市役所なのだから、市役所でのイベント、おまつり、キッズダンスの発表会、カラオケ大会 etc…そこに売店（もぎ店）を設置して色んな商品売る/買う…ようするにつるフェスのことでした笑汗</p> <p>・子供たちがのびのびと遊べるイベント（最近、外で子供をあまり見かけない。ゲームのしすぎ）</p>
<p>今は SNS の時代だけど、年配の人は、けーたい、パソコンを持っていなかったり、もっていても、上手に活用する事は難しいと思います。市の広報や、回覧板は、年配の人にとってはとても大切な情報収集です。子育てには、十分に充実しているので、年配の人にとって住みやすい市になる事を願います。</p>
<p>世代間の交流が深まると住民同士の支え合いにもつながると思います。運動会、納涼祭、一斉清掃などがありますが、それぞれ回数を増やすことができれば住民同士が顔をあわせる機会が増えると思います。</p>
<p>高齢者の皆さんと子供たち、親子、料理を行い、色々なアイデアを出して協力して作っていく。高齢者のみなさんの料理、若い世代の料理、ふれあい料理、自治会単位で進めていけたら</p>
<p>私のすんでいる団地は、全々横のつながりがなく、家の中にひたすら、じーとがまんして生活して日々、死がおとずれるのをまっている状たいです。淋しいものです。家ちんを払って、年金では、楽しみも何ももてません。三食たべるだけ、テレビをみるだけだけど電気代色々気になります。だが、親にもらった生命自分なりにがんばってます。主人がいますがむずかしい人で 10 日でも口をきかない日が多くあります。かなしいです。病院 3ヶ所に行き病院代も高いです。何をけずるか会費です。割引ふだのもので生活してます。高いものはみないふり。ごめんなさい色々かきました</p>
<p>成年後見制度利用促進について先進事例を参考に早期に体制を整えてほしい</p>
<p>・緑が多く自然が豊かとうたう鶴ヶ島市そこをもっと充実させてベンチを置いたり太陽光線がさしこむように木々の上の方をカットしたりして明るい感じにしたり地面の上には小さな草花が咲いていたりして風通しのよいさわやかな感じであればなと思います。</p> <p>・個人的には鶴ヶ島市の高齢者一人暮らし世帯はどの位の数になるのだろうと思います。その人達はどのようにいらっしゃるのかなと思います。</p>
<p>地域行事について昨年行ったことを細かく表にしたもの等があると嬉しい。事前情報が詳しく分かっていたら参加し易い。</p>
<p>誰でも集える公園があると良いです。ペットも入れると尚、良いです。色々な情報を得ることが出来ると思います</p>

<p>若葉駅西口に誰もが気軽に利用できる、飲食店（カフェ）等がたくさんできるとよい。パチンコなどの娯楽施設は広い場所に移設し、女性や子ども達に優しい街作りをめざしてほしい。“つるちゃん”や“つるがしま最中”などが食べれるオープンカフェ！！アレンジした物など鶴ヶ島の特色を生かしたお店など希望します。東口には多少店舗がありますが、西口に行くと〇〇が有る、みたいな場所があったら良いです。</p>
<p>こども園がもう少し増えたらうれしい。待機児童0人だとうれしい。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなことを気軽に相談できる場所があればいいと思います。 ・産婦人科（病院）を作って欲しい（鶴ヶ島はないため）
<p>コロナ禍で、行き来が出来なくなった昨今は仕方ありませんが、住民が安心して集まれるようになったら…自治会館を利用して、いろいろな世代ごとに、読書会や茶話会を開催したらいいと思っています。牛乳すら重くて買いに行けないと言うお年寄のお手伝いをして下さる方が、もっと増えたら、安心して歳を重ねられるのですが…</p>
<p>“得意なことボランティアバンク”を設立。住民が得意なことや資格を登録しておき、助けを必要としている人がいる場合に鶴ヶ島市認定ボランティアとして活動できるシステムがあれば良い。ボランティア活動は市独自のポイントとして貯めることもでき、自分が何かしらのボランティアサービスを受けるとき、利用できるようにすれば住民同士の共助につながるのではないかと。</p>
<p>「誰もが」というのが一番難しくもあり、考えなければならぬ事なんだろうと思います。社会的弱者（あまり良い言い方ではありませんが）ひきこもりの人障害を持った人、お年より、子育て中の人、妊婦さんなど、普通の状態ではない人が、生活しやすく、生きやすい社会であってほしいと思います。しかしながら世の中は、この普通の人たちを中心に考えられた社会システムのような気がします。という私も、普通の方の人間なのですが…。いろんな人がいるんだという事を、子供の時から知る事、どんなふう共存していくんだという教育、子供の時から全員が学んだら、もっともっと、もっともっと、やさしい社会ができるのではないかと思います。</p>
<p>高齢者（60～70代）の仕事を離れた人が地域活動に参加して、少額の収入を得られ、やりがいを感じられる仕組み</p>
<p>つるバスの停留所に保健センターも入れてほしいです。つるバスとつるワゴンの乗り返えが不便です。</p>
<p>鶴ヶ島は特に高齢化が進んでいます。納税する会社や人が少ない為か、税金も鶴ヶ島に越してから上がっています。もちろん良い点も沢山ありますが、もっとこの市を元気にする為にも若い世代への子育てのしやすさをアピールして欲しいです！！川越市の子育てイベントのようにパパママサロンや公民館でのイベントを増やして欲しいです！農家さんと市が提携して、子供に芋掘り体験（有料でもいいです）を開催して、地域とのつながりを持ってもらうなど、運動公園でフリーマーケットをやるなど、活気がつくかと思っています。</p>

- ・定期的な身回り（1人暮らしの方）や訪問
- ・巡回バスの増加
- ・お買物の代行や支援（お年寄対象）
- ・道路脇の花壇作り（花いっぱい運動など）
- ・公園の整備（草やじゃり（砂利）をなくす）

① 公園（畑ヶ谷湧水園会など）これから利用形態の工夫で身近から交流の場
にできるのでは

② プライバシーとの関連がありむずかしい面もあるが、地域在住者の高齢化
や独居化などの支援の必要な人に情報が不足しているように感じる

*コロナ感染の第3波が懸念される中での市民後見活動と感染防止への課題
やサポートをどのように考えたら良いか？